

2025(令和7)年度

国際関係学部履修要項

【2025(令和7)年度入学生用】



静岡県立大学

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

履 修 要 項

年間行事予定表

教育方針

履修案内

1. はじめに
2. 単位制
3. 授業科目
4. 授業
5. 履修登録
6. 試験
7. 学修の評価
8. 卒業・留年
9. 卒業研究
10. 9月卒業制度と卒業研究履修の方法
11. 教職課程
12. 日本語教員養成課程

授業科目一覧

履修細則

令和7年度 静岡県立大学年間授業予定表

2025年4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			2026年1月			2月			3月		
日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事	日	曜日	行 事
1	火	学年・前期開始	1	木	木4	1	日		1	火	火11	1	金	金16	1	月		1	水	水1	1	土	土5	1	月	推薦・佛国生徒入試※	1	木	元日	1	日		1	日	
2	水		2	金	金3	2	月	月7	2	水	水11	2	土	土16	2	火		2	木	木1	2	日		2	火	火8	2	金		2	月	月15	2	月	
3	木	春期休業終了	3	土	憲法記念日	3	火	火7	3	木	木13	3	日		3	水		3	金	金1	3	月	文化の日	3	水	水9	3	土		3	火	火15	3	火	
4	金	ガイダンス	4	日	みどりの日	4	水	水7	4	金	金12	4	月	月16	4	木		4	土	土1	4	火	午前月4【変則】 午後月5【変則】	4	木	木10	4	日		4	水	水16	4	水	
5	土		5	月	こどもの日	5	木	木9	5	土	土12	5	火	火16	5	金		5	日		5	水	水5	5	金	金9	5	月	月11	5	木	木16	5	木	
6	日		6	火	振替休日	6	金	金8	6	日		6	水	水16	6	土		6	月	月1	6	木	木6	6	土	土10	6	火	火12	6	金	金16	6	金	
7	月	ガイダンス	7	水	水3	7	土	土8	7	月	月12	7	木		7	日		7	火	火1	7	金	金6	7	日		7	水	水12	7	土	土16	7	土	
8	火	ガイダンス	8	木	木5	8	日		8	火	火12	8	金		8	月		8	水	水2	8	土	土6	8	月	月8	8	木	木13	8	日		8	日	入試中期※
9	水	入学式	9	金	金4	9	月	月8	9	水	水12	9	土		9	火		9	木	木2	9	日		9	火	火9	9	金	金12	9	月	月16	9	月	
10	木	木1	10	土	土4	10	火	火8	10	木	月13【変則】	10	日		10	水		10	金	金2	10	月	午前月5 午後月6	10	水	水10	10	土	土13	10	火	火16	10	火	
11	金	金1	11	日		11	水	水8	11	金	金13	11	月	山の日	11	木		11	土	土2	11	火	火5	11	木	木11	11	日		11	水	建国記念の日	11	水	
12	土	土1 新入生 歓迎行事	12	月	月4	12	木	木10	12	土	土13	12	火		12	金		12	日		12	水	水6	12	金	金10	12	月	成人の日	12	木		12	木	後期入試
13	日		13	火	火4	13	金	金9	13	日		13	水	大学休業日	13	土		13	月	スポーツの日	13	木	木7	13	土	土11	13	火	月12【変則】	13	金		13	金	
14	月	月1	14	水	水4	14	土	土9	14	月	月14	14	木	大学休業日	14	日		14	火	火2	14	金	金7	14	日		14	水	水13	14	土		14	土	
15	火	火1	15	木	木6	15	日		15	火	火13	15	金	夏期休業開始 大学休業日	15	月	夏期休業終了 敬老の日	15	水	月2【変則】	15	土	土7	15	月	月9	15	木	金13【変則】	15	日		15	日	
16	水	水1	16	金	金5	16	月	月9	16	水	水13	16	土		16	火		16	木	木3	16	日		16	火	火10	16	金	試験準備 (休講)	16	月		16	月	
17	木	木2	17	土	土5	17	火	火9	17	木	木14	17	日		17	水		17	金	金3	17	月	午前月6 午後月7	17	水	水11	17	土	共通テスト※	17	火		17	火	学位記授与式
18	金	開学記念行事	18	日		18	水	水9	18	金	金14	18	月		18	木		18	土	土3	18	火	火6	18	木	木12	18	日	共通テスト※	18	水		18	水	
19	土	土2	19	月	月5	19	木	木11	19	土	土14	19	火		19	金	集	19	日		19	水	水7	19	金	金11	19	月	月13	19	木		19	木	
20	日	開学記念日	20	火	火5	20	金	金10	20	日		20	水		20	土		20	月	月3	20	木	木8	20	土	土12	20	火	火13	20	金		20	金	春分の日
21	月	月2	21	水	水5	21	土	土10	21	月	海の日	21	木	県民の日	21	日		21	火	火3	21	金	金8	21	日		21	水	水14	21	土		21	土	春期休業開始
22	火	火2	22	木	木7	22	日		22	火	火14	22	金		22	月	中	22	水	水3	22	土	土8	22	月	月10	22	木	木14	22	日		22	日	
23	水	水2	23	金	金6	23	月	月10	23	水	水14	23	土		23	火	秋分の日	23	木	木4	23	日	勤労感謝の日	23	火	火11	23	金	金14	23	月	天皇誕生日	23	月	
24	木	木3	24	土	土6	24	火	火10	24	木	木15	24	日		24	水		24	金	金4	24	月	振替休日	24	水		24	土	土14	24	火		24	火	
25	金	金2	25	日		25	水	水10	25	金	金15	25	月		25	木	講	25	土	土4 創 祭	25	火	火7	25	木		25	日		25	水	入試前期※	25	水	
26	土	土3	26	月	月6	26	木	木12	26	土	土15	26	火		26	金		26	日		26	水	水8	26	金		26	月	月14	26	木		26	木	
27	日		27	火	火6	27	金	金11	27	日		27	水		27	土	義	27	月	午前休講 午後月4	27	木	木9	27	土		27	火	火14	27	金		27	金	
28	月	月3	28	水	水6	28	土	土11	28	月	月15	28	木		28	日		28	火	火4	28	金	午前月7【変則】 午後休講	28	日	冬期休業開始	28	水	水15	28	土		28	土	
29	火	昭和の日	29	木	木8	29	日		29	火	火15	29	金		29	月		29	水	水4	29	土	土9	29	月		29	木	木15	29			29	日	
30	水	火3【変則】	30	金	金7	30	月	月11	30	水	水15	30	土		30	火	前期終了	30	木	木5	30	日		30	火		30	金	金15	30			30	月	
			31	土	土7				31	木	木16		日					31	金	金5				31	水		31	土	土15				31	火	
前期及び通年科目の履修登録(下旬まで)																		後期科目の履修登録(中旬まで)																	

は休業日

は通常授業が行われない日

赤字 は、主な行事、注意が必要な休講日、入構禁止日

青字 は、変則日程

※印の日は入試のため大学構内への入構制限あり。一般学生は入構できません。

令和7年度全学共通科目時間割表

2025.02.20

＜ 前期 ＞ ＊第1部門:リテラシーとスタディ・スキル 第2部門:概論 第3部門:現代教養

時 限	月					火					水					木					金					
	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	
1			(開講なし)			前 前 前 前	1 2 3 3	ドイツ語入門 環境科学入門 西萩安全保障入門Ⅰ 実用科学英語応用編	小谷民菜 谷幸則ほか 西萩安全保障入門Ⅰ 太田敏郎	2216 13411 2108 2107	前 前 前 前	1 1 1 2	日本語作文A スペイン語入門 TOEICビジネス英語Ⅰ 化学入門	逢坂里恵 杉田和歌子 山本好比古 眞鍋敬ほか	3313 3317 2310 2106	前 前 前 前 前 前 前	1 2 2 2 2 2	ヒューマン・ケア 物理学入門 生物学入門 社会思想史入門 国際関係学入門 公共政策入門	飯島本子 本岡宏成 浅井知浩 ほか 犬塚協太 坂巻静佳ほか 藤本健太郎	3315 2107 13411 2108 2215 4106	前 前 前 前 前 前 前	1 2 3(英語) 3(しずおか学) 3(しずおか学)	TOEFL留学英語Ⅰ 知的財産管理入門 基礎生命科学Ⅰ 静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 SDGs概論	藤森敦之 居藤洋之 太田敏郎 森本達也ほか 近藤啓ほか	2310 2107 5314 大講堂 2103	
						前	3(しずおか学)	静岡「知」各論ー食品環境科学と地域企業の視点からー	伊藤創平ほか	2215	前	3(しずおか学)	歴史からみるしずおか学 静岡の防災と医療	上野雄史・村橋樹 森本達也ほか	2215 大講堂	前	2									
						前	3(しずおか学)	世界からしずおかを見る しず おかから世界へ	坪田 光平	2109	前	3(しずおか学)	横井善織 ほか	2107	前	3(しずおか学)	新聞でもっと静岡を知ろう 静岡ゲームチャリティー実践 ふじのくにが「ストリミラー」を 観る、食べる学ぶ	上原克仁 ディバーン 大久保あかねほか	4109 3108 4213							
	2	通年	身体運動	身体運動科学A【国際】	鈴木健司	2107						前	1	中級日本語Ⅱ	松尾佳代子	3313	前 前 前	3(英語) 3(英語) 3(しずおか学)	英語で学ぶ日本語ⅠA 英語で学ぶ日本語ⅠB	藤森敦之 藤森敦之	2310 2310	通年 通年 前	身体運動 身体運動 1	身体運動科学B【国際・経情】 身体運動科学B【国際・経情】 TOEICビジネス基礎英語	下川学 窪田辰政 堀内裕晃	2109 2109 2109
	3						通年	身体運動	身体運動科学B【食品】	牧田浩幸	2107						通年 通年 通年	身体運動 身体運動 身体運動	身体運動科学A【国際】 身体運動科学A【国際】 身体運動科学A【経情】	窪田辰政 富田裕一郎 富田裕一郎	4105 4105 4105	前 前 前	1	フランス語入門	山本ひとみ	2216
	4	通年 通年 通年	身体運動 身体運動 身体運動	身体運動科学A【食品・経情】 身体運動科学A【食品・経情】 身体運動科学A【食品・経情】	鈴木健司 二見隆亮 窪田辰政	4109 2217	前 前 前後	3(しずおか学) 3(しずおか学) 3(しずおか学)	ムセイオン静岡 ー MUSEUMと文化A ムセイオン静岡 ー MUSEUMと文化B	立田洋司 立田洋司	3316 3316	前 前 前後	3(しずおか学) 3(しずおか学) 3(しずおか学)	ムセイオン静岡 - 舞台芸術A ムセイオン静岡 - 舞台芸術B	立田洋司 立田洋司	小講堂 小講堂	通年 通年 通年	身体運動 身体運動 身体運動	身体運動科学A【経情】	富田裕一郎	4105	前 前 前	1	フランス語入門	山本ひとみ	2216
5											前	総合科目	キャリアデザイン概論	東野定律 ほか	4111	前	総合科目	男女共同参画社会とジェンダー	犬塚協太ほか	2109						
6	前前	1	数理・データサイエンス・AI入門	武藤 伸明 ほか	遠隔																					

＜ 後期 ＞ ＊第1部門:リテラシーとスタディ・スキル 第2部門:概論 第3部門:現代教養

時 限	月					火					水					木					金							
	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室	開講期	部門	科目名等	教員	教室			
1			(開講なし)			後 後 後 後前 後後 後後 後	2 2 3 3(英語) 3(英語) 3(英語) 3	社会学入門 生涯発達心理入門 国際安全保障入門Ⅱ 現代日本文化入門A 現代日本文化入門B 実用科学英語基礎編	石井由香 笹宗一ほか 西萩之 ファイファー ファイファー 太田敏郎	3315 13411 2108 2109 2109 5314	後 後 後 後 後 後 後	1 1 1 2 2 3 3	中国語入門 日本語作文B TOEICビジネス英語Ⅱ 宗教学入門 哲学入門 くらしと化学A くらしと化学B	王元武 逢坂里恵 山本好比古 佐藤清子 飯野勝己 近藤啓ほか 近藤啓ほか	3315 3313 2310 2309 2107 2108 2108	後 前後 前後 後 前後 前後 後	2 3(英語) 3(英語) 3(しずおか学) 3(しずおか学) 3(しずおか学)	自然科学概論 経営分析入門A 経営分析入門B 茶学入門 静岡地域食材料A 静岡地域食材料B	橋本博ほか 上野雄史ほか 上野雄史ほか 中村順行 三好規之ほか 江口智美ほか	2106 2312 2312 13411 2215 2215	後 後 後 後 後 後 後	1 2 2 2 3(英語)	TOEFL留学英語Ⅱ 薬剤発達史入門 歴史学入門 心理学入門 基礎生命科学Ⅱ	藤森敦之 内田信也ほか 栗田和典 西田公昭 太田敏郎	2310 2106 3312 13411 5314			
						後	3(しずおか学)	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	上原克仁	4111	後前 後前 後	3 3 3	健康イノベーション/教育ブレイク	新井英一ほか	2106	後前 後後	3(英語) 3(英語)	言語の学習・習得ⅡA 言語の学習・習得ⅡB	藤森敦之 藤森敦之	2310 2310	通年 通年	身体運動 身体運動	身体運動科学B【国際・経情】 身体運動科学B【国際・経情】	下川学 窪田辰政	2109 2109			
	2	通年	身体運動	身体運動科学A【国際】	鈴木健司	2107						後 後前 後後	1 3(しずおか学) 3(しずおか学)	中級日本語Ⅰ ムセイオン静岡 ー 世界の文化遺産A ムセイオン静岡 ー 世界の文化遺産B	松尾佳代子 立田洋司 立田洋司	3313 2309 2309												
	3					通年	身体運動	身体運動科学B【食品】	牧田浩幸	2107						通年 通年 通年	身体運動 身体運動 身体運動	身体運動科学A【国際】 身体運動科学A【国際】 身体運動科学A【経情】	窪田辰政 富田裕一郎 富田裕一郎	4105 4105 4105	後	1	TOEICビジネス基礎英語	堀内裕晃	2109			
	4	通年 通年 通年	身体運動 身体運動 身体運動	身体運動科学A【食品・経情】 身体運動科学A【食品・経情】 身体運動科学A【食品・経情】	鈴木健司 二見隆亮 窪田辰政	4109 2217										通年 通年 通年	身体運動 身体運動 身体運動	身体運動科学A【国際】 身体運動科学A【国際】 身体運動科学A【経情】	窪田辰政 富田裕一郎 富田裕一郎	4105 4105 4105								
	5																					後	総合科目	ジャーナリズム論	西萩之ほか	2109		

＊以下の集中講義科目の日程については、別途掲示します。人数制限等を行う予定の授業科目(R7)

開講期	部門	科目名等	人数制限
前期	3(英語)	言語の学習・習得ⅠA	－
前期	3(英語)	言語の学習・習得ⅠB	－
後期	2	文化人類学入門	－
後期	3(英語)	英語で学ぶ日本語ⅡA	－
後期	3(英語)	英語で学ぶ日本語ⅡB	－
前期	3(しずおか学)	ふじのくに学(演劇論)	抽選
前期	3(しずおか学)	ふじのくに学(お茶)	抽選
前期	3(しずおか学)	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	抽選
前期	3(しずおか学)	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅡ)	抽選
前期	3(しずおか学)	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅢ)	抽選
前期	3(しずおか学)	ふじのくに学(魅力ある食と地域づくり)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(富士山学概論)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(農林業)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(観光学)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(南アルプスの自然)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(伊豆の温泉と産業おこし)	抽選
後期	3(しずおか学)	ふじのくに学(西部地域の特性と産業)	抽選
後期	総合科目	キャリアと社会＊	抽選
前期	総合科目	高野山で学ぶキャリアとわたし＊	抽選

＊南大阪地域大学コンソーシアム科目

黄色 ……しずおか学
グレー ……英語による科目

教室は、受講者数等の状況により変更される場合があります。

- 下線が引かれている科目は1単位
- 教員名の網掛けは非常勤講師
- 身体運動科学は通年科目で原則【 Ⅰ】内の学部生が対象

(4) 教室番号は下表を参照

各教室の千番台は号棟、百番台は階数を表す。

2	一般教育棟
3	国際関係学部棟
4	経営情報学部棟
5	食品栄養科学部棟
6	薬学部棟
12	食品栄養科学部2号棟
13	看護学部棟

例)
2103 一般教育棟1階
13411 看護学部棟4階

授 業 時 間	1時限	9:00～10:30
	2時限	10:40～12:10
	3時限	13:00～14:30
	4時限	14:40～16:10
	5時限	16:20～17:50

【開講期について】

＊前前、後前は、各学期の1～7回目に実施します。前後、後後は、各学期の8～14回目に実施します。
(ただし科目によっては、前半を1～8回目、後半を9～16回目に実施しますので、シラバスを参照してください。)

＊講義開始時の状況により、上記の科目以外でも人数制限したり制限方法を変更したりします。

教育理念

本学部は、政治・経済・社会・文化・言語の多様性を理解し、グローバルに活躍できる人材を養成します。そのために学際的アプローチを重視し、複雑化する国際関係を、多元的・複合的に理解するための教育を提供します。

教育目標

以上の理念に基づき、本学部は国際社会を理解するための思考力と洞察力を兼ね備え、幅広い教養を身につけた人材の育成を目標とします。具体的には、国家間の関係を踏まえつつ、国境や文化の壁を越えて人と人を結び、国際社会と地域社会の課題に取り組むことのできる課題発見・解決型人材の育成を目指します。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

国際関係学部は、国家間の関係を踏まえつつ、国境や文化の壁を越えて人と人を結び、国際社会と地域社会の課題に協力して取り組むことのできる課題発見・解決型人材を育成するため、教育課程(カリキュラム)を編成・実施しています。学位(国際関係学・国際言語文化学)授与に関する基本的な考え方は以下のとおりです。

国際関係学科

国際関係学科は、現代の国際社会、国家、および地域社会が抱える諸課題を発見し、その解決策を探究できる人材を育成することを目標としています。このための専門課程として、国際公共政策、国際開発、共生社会の3つの専門プログラムを設置しています。学生はいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士(国際関係学)の学位を授与されます。授与に際しては以下の内容が重視されます。

1. 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、基礎的教養、地域研究能力等の基礎的な研究技法を身につけている。
2. 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって探究できる能力と、その成果を他者と共有し得る能力を備えている。
3. 国際社会、国家、および地域社会がかかえる様々な諸課題についての多角的な知識を有し、修得した研究技法を柔軟に応用することを通じて、国際社会から地域社会に至る幅広い射程のもとで、社会の現状と課題を的確に理解することができる。
4. 修得した学知を通じて、国際社会、国家、および地域社会が抱える諸課題に対して、その前提を再考したり、新たな課題を発見したりしながら、他者と協働して課題解決に取り組むことのできる実践的な能力を備えている。

国際言語文化学科

国際言語文化学科は、世界の言語と文化の多様性を理解し、実践的なコミュニケーション能力をもって、国境を越えて人と人をつなぐ架け橋となり得る人材を育成することを目標としています。このための専門課程として、グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究の5つの専門プログラムを設置しています。学生はいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士(国際言語文化学)の学位を授与されます。授与に際しては以下の内容が重視されます。

1. 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、基礎的教養、地域研究能力等の基礎的な研究技法を身につけている。
2. 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって探究できる能力と、その成果を他者と共有し得る能力を備えている。
3. 世界の言語と文化についての豊富な知識を持つことによって、それらを的確に理解し、分析する能力を獲得し、グローバルな視野と柔軟な姿勢を身につけている。
4. 多様な言語と文化の理解を前提とした実践的なコミュニケーション能力を獲得することを通じて、様々な言語文化的背景を持った人々と円滑に協働することができ、言語や文化の壁を越えて、人と人をつなぐ架け橋となり得る能力を備えている。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示される能力を有する人材を育成するため、以下の観点から教育課程を編成し、実施します。

1. 本学部では、国家間の関係を踏まえつつ、国境や文化の壁を越えて人と人を結び、国際社会、国家、および地域社会の課題解決に他者と協働して取り組むことのできる課題発見・解決型人材を育成するための体系的かつ順次的なカリキュラムを編成しています。
2. 本学部生は、低年次の教育課程において、まず、基礎的な学修能力と研究能力を身につけることを目標として学びます。
3. このために、本学部のカリキュラムでは、低年次において学生が身につけるべき基礎的能力を4つのラーニング・クラスター(アカデミック・リテラシー、英語コミュニケーション力、地域実践力、学部基礎力)として明示しています。
4. 学生はこれらの4つの能力をバランス良く身につけることを通じて、国境や文化の壁を乗り越えるコミュニケーション能力と、国際社会、国家、および地域社会の課題に取り組むことのできる課題発見・解決能力の基礎を形成します。また、低年次におけるラーニング・クラスターと高年次における専門プログラムを接続するためのブリッジ科目

を学科ごとに定めています。これらを通じて、国際関係および言語文化にかかわる専門領域に触れて、将来進むべき専門プログラムを選択する準備を整えます。

5. 高年次においては、特定の専門プログラムを選択し、低年次において培った基礎的研究能力を駆使しながら、それぞれのキャリアパスを見据えた専門的な学びを構築し、実社会で活躍できる能力を完成させます。このために、国際公共政策、国際開発、共生社会(以上国際関係学科)、グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究(以上国際言語文化学科)の8つのプログラムを設置しています。さらに各プログラムと連動した少人数の演習(ゼミ)に分かれて、その専門的な学びを重点的に深化させます。
6. 最終的に、各学生が特定の研究課題を探究する卒業研究に取り組むことを通じて、課題の発見と解決に自力で挑戦することで、4年間の学びを総括し、卒業後のキャリア形成に繋がります。
7. 高等学校教諭(英語・国語)、日本語教員、社会調査士など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置しています。
8. 授業内容を習得するために十分な学習時間を確保することを目的として、GPA(成績評価平均値)に基づくCAP制(履修登録単位数制限)を設定しています。

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

国際関係学部は、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。具体的には、グローバルな視点を兼ね備え、さまざまな課題に対して適切に判断を下して行動できる優れた人材の育成を目指します。そのために、以下のような学生を求めます。

1. 国語、外国語、数学等の学習を通して、文章の読解力や表現力、コミュニケーション力、論理的思考力等を身につけている人。
2. 地理歴史や公民等の学習を通して、国際関係を理解するための前提となる、さまざまな地域の歴史や社会についての基礎知識を身につけている人。
3. さまざまな分野に知的好奇心を持つとともに、主体的な問題意識に基づく探究心を持って、情報収集や考察を行える人。
4. 激動する世界の動向に関心を持ち、国際関係の専門領域を学びたいと考えている人。あるいは、国家の枠組みを越えた集団や個人間の多様な関係について学びたいと考えている人。また、それらの学習を生かして、国際社会や地域社会で活躍したいと考えている人。
5. 人と人との関わりに興味を感じ、他者理解に豊かな想像力を駆使できるとともに、日本をはじめとする世界のさまざまな地域の言語や文化について、深く学びたいと考えている人。また、それらの学習を通して、国際社会や地域社会で活躍したいと考えている人。

履 修 案 内

1. はじめに

この「履修案内」は、大学の授業の仕組みとその履修に必要な手続き等を、本学学則及び履修細則にしたがって解説したものである。事務手続きを理解していないと学修に支障をきたすことがあるので、そのようなことのないよう、この「履修案内」を読みこみ、使いこなしてほしい。また、4月に行われるガイダンスには必ず出席し、さらに不明な点がある場合は学生室または指導教員を訪ね、相談するようにされたい。

以下、単位制、授業科目、授業、履修登録、試験、成績評価、進級・卒業の順に説明する。

2. 単位制

(1) 単位とは

単位とは、一定の質の学修の量を示す基準である。各科目にはそれぞれ単位数が定められている。科目を履修して試験に合格すれば、所定の単位を修得できる。

(2) 単位と授業時間数

- ① 学年は前期・後期の2学期に分けられる。定期試験をふくめ、1学期は16または17週にわたる。
- ② 1単位の履修時間は、教室の内外を合わせて45時間と規定されている(学則第36条)。したがって、1科目につき授業の1時間と予習・復習の2時間をあわせた計3時間(外国語科目と演習の場合は、授業の2時間と予習・復習の1時間をあわせた計3時間)の学修を15週間行って1単位となる計算である。ただし、本学では、授業時間割の1時限(90分)を授業時間2時間分とみなして単位数を算出している。
- ③ 科目の単位は次の基準によって定められている。

1単位の基準表

区 分	授業時間	自習時間	計
講 義	15	30	45
外 国 語・演 習	30	15	45
実験・実習・実技	30	－	30

以上のように、1単位と計算される学修の時間量は、授業時間に加え、学生の自習時間を含めて計算されている。学生の自主的学修は、単位修得のための不可欠の要素である。

3. 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目は、対象となる学生によって次のように分類される。

全学共通科目：すべての学部の学生を対象とした科目

専門教育科目：国際関係学部の学生のみを対象とし、次のように分類される科目

LC1アカデミック・リテラシー、LC2英語コミュニケーション、LC3地域実践力

LC4学部基盤科目、ブリッジ科目、専門プログラム、自由選択科目、演習、卒業研究

(2) 必修、選択等による履修区分

授業科目は、卒業要件の観点から次のように分類される。

必修科目…必ず単位を修得しなければならない授業科目

選択科目…指定された科目から所定の単位数を必ず修得しなければならない授業科目

自由選択科目…LC1アカデミック・リテラシーとLC2英語コミュニケーションとLC3地域実践力の地域言語に指定された授業科目を除いたすべての国際関係学部専門教育科目(自由選択言語科目を含む)及び全学共通科目から自由に選択して履修する授業科目

(3) 配当年次

配当年次とは、その授業科目を履修することに最も適している学年のことで、その年次から履修登録できることを意味する。

	1年生	2年生	3年生	4年生
配当年次 1	○	○	○	○
配当年次 2	×	○	○	○
配当年次 3	×	×	○	○
配当年次1・2	○	○	○	○
配当年次2・3	×	○	○	○
配当年次3・4	×	×	○	○
配当年次2～4	×	○	○	○
配当年次1～4	○	○	○	○

○は履修登録できる ×は履修登録できない は履修に最も適した学年

4. 授 業

(1) 学 期

学年は前期・後期の2学期に分けられる。

年間授業予定表にあるとおり、各授業科目に15回分が確保されている。

(2) 授業時間

授業時間は1時限90分である。1日は5時限に区切られる。

時 限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
時 間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(3) 授業時間割

授業時間割表は、履修要項(この冊子)に綴じこまれている。

時間割は変更される場合があるので、「Web学生サービス支援システム/UNIVERSAL PASS PORT」(以下、「ユニパ」という)上の最新情報と掲示に注意すること。

(4) 休講、補講、集中講義等

① 休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、ユニパから掲示・配信されるので注意すること。

休講の連絡なく講義が行われなかった場合は、学生室へ連絡し確認すること。

② 補講

講義期間終了後に補講日が設けられている。現在は定期試験期間と同一である。補講が行われる場合は、ユニパの掲示や担当教員からの直接の指示等により連絡されるので、日時・教室などをよく確かめ、授業に出席すること。

③ 集中(隔週)講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。

集中講義の実施日や時間割などの詳細については、ユニパで掲示する。

5. 履修登録

(1) 履修登録の意味

履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修登録をしなければならない。

履修登録をしないと、たとえ授業に出席し、試験を受け、十分に学修したとしても、単位を修得することができない。

(2) 履修登録の時期及び方法

履修登録は、一部の科目を除き、定められた期間内に、ユニパにより行う。

(3) 履修登録の注意事項

- ① 同一時間帯に2科目以上の科目を重複して履修することはできない。
- ② 既に単位を修得した授業科目を履修することはできない。
- ③ 施設上または教育上やむを得ないと認められる場合は、履修者を制限する場合がある。
- ④ クラスが指定されている場合は、それに従って登録する。
- ⑤ GPA(成績評価平均値)に基づくCAP(履修登録単位数制限)制により、1学期に履修登録できる単位数には制限がかけられる。〔「7. 学修の評価(5)GPA(成績評価平均値)」CAP(履修登録単位数制限)制〕を参照)

(4) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修するときは、当該の授業科目を担当する教員から承認を得なければならない。所定の書式(用紙は学生室で受領するか、または、ユニパからダウンロードすること)により、授業開始後2週間以内に学生室へ申し出ること。他学部の授業科目の単位は、8単位を限度として卒業に必要な単位数(自由選択科目)に算入することができる。

(5) 静岡大学(人文社会科学部及び教育学部)の授業科目の履修

本学部と静岡大学人文社会科学部及び教育学部との間には、大学間協定に基づき、単位互換制度が実施されているので、12単位を限度として卒業に必要な単位数(自由選択科目)に算入することができる。履修の手続、履修できる科目、単位の認定等の詳細については、別途掲示する。

(6) 海外の交流協定大学で修得した単位の認定

交流協定大学に留学をした場合は、帰国後に所定の手続きを経れば、交流協定大学で修得した単位を本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業に必要な単位数に算入することができる。詳細については学生室に確認すること。

6. 試 験

(1) 試験とは

授業科目の試験に合格した者に、当該の科目の修得が認定され、所定の単位が与えられる。

受験できる科目は履修登録した科目のみであり、それ以外の科目は受験できない。

試験は、授業担当教員の判断により、筆記、レポート、口頭試問、実技テストその他の方法により実施される。また、出席状況や授業態度なども成績評価を決定する材料となる場合がある。

(2) 試験の種類

① 定期試験

定期試験は、原則として各学期の終了時に2週間にわたり実施される。定期試験の時間割は、試験開始の10日前までにユニパを通じてまたは掲示により発表される。発表後も変更される場合があるので注意を要する。

② 随時試験

授業中、または定期試験期間外に設けた特別な時間で試験を実施することがある。
この場合、授業や掲示等で伝達されるので、聞き漏らしや見落しのないように注意すること。

③ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

ア. 病気(ただし、医師の診断書を要する)

イ. 忌引(1または2親等に関し、死亡の日より1週間以内)

ウ. 就職に関する事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

エ. その他やむを得ない事由(ただし、具体的に事情の具申あるもの)

なお、軽微な風邪等は、正当な理由とは認められないので注意すること。

追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願(用紙は学生室にある)に試験を欠席した理由を詳しく記し、医師の診断書その他の証明書類を添付して、学生室に提出する。追試験は原則として試験日から1か月以内に行う。追試験の成績の評価は原則として優以下となる。

(3) 受験上の注意

試験場内では、監督者の指示および以下の注意に従わなければならない。

- ① 正々堂々と受験すること。不正行為は許されない。
- ② 不正行為を行ったと認められる者に対しては、学則及び履修細則に照らし処分する(学則第57条、履修細則第10条)。不正行為が行われた科目の単位は与えられず、さらに、当該学期のすべてまたは一部の科目の修得単位も無効とされる可能性がある。
- ③ 受験時の座席については、監督者より特に指示がない場合は一つおきに着席し、他の受験生と隣り合うことがないようにする。
- ④ 試験時は、使用が認められた物だけを机の上に置きそれ以外の持ち物は鞆の中などに収納する。
- ⑤ 机の上に学生証を置くこと。学生証のない者は原則として受験できないので注意する。
- ⑥ 学生証を忘れた者は、学生室にて定期試験仮受験票を発行してもらい、机の上に置く。
- ⑦ 原則として、試験開始時刻より30分を過ぎた場合は、試験場への入室は認められないので注意する。

(4) レポート作成上の注意

レポートで他の文章やデータ等を引用する場合は、出典を明記しなければならない。これに反する行為と判断された場合には当該レポートは無効と判定され、その科目の単位は与えられない可能性があることに注意する。

7. 学修の評価

(1) 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則及び担当教員の評価方法により、試験、レポート、平常の授業などにおける学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可または合格・不合格の評語で表現される。

(2) 評価の基準

合格 秀:100点～90点 優:89点～80点 良:79点～70点 可:69点～60点
不合格 不可:59点～0点

成績が秀・優・良・可及び合格と評定されたものは、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修を登録しながら履修または受験しなかった授業科目は不可または不合格と成績登録される。

(3) 成績の確認

成績はユニパで確認することができる。

(4) 再履修

単位を修得できなかった授業科目については、他の学期に再び履修することができる。

(5) GPA(成績評価平均値)とCAP(履修登録単位数制限)制

① GPAとCAP制とは

本学部では、GPAに基づくCAP制を実施している。GPAとは、成績を秀＝4、優＝3、良＝2、可＝1と点数化し、各科目の単位数をかけたものの総和を履修登録科目の総単位数で割った値である。CAP制とは、前学期のGPAを基準にして、履修登録できる単位数の上限をもうける制度である。

② 登録できる上限

直前の学期のGPAが3.0以上であれば、履修登録できる単位数に上限はない。3.0未満の場合には、履修登録できる単位数が24単位までに制限される。前学期のGPAのない1年生の前期には、24単位まで履修登録できる。

③ 制限対象と登録抹消期間

教職専門科目はGPAの計算や履修制限の対象ではない。制限単位数を超えて履修登録した学生は修正がなされないと、すべての履修登録が無効となり、その学期の修得単位はゼロになる。また、授業の達成度などを考慮し、学生は前期5月下旬、後期11月下旬に設定される期間において、履修登録を取り消すことができる。

8. 卒業・留年

(1) 修業年限と在学年限

本学の修業年限は4年である。8年を超えて本学に在籍することはできない。ただし、在学期間に休学期間は算入されない。

(2) 留年

4年次在学者で卒業要件を満たさなかった者は卒業できない。ただし、4年次3月において卒業要件を満たさなかった者が、次年度途中にその要件を満たした場合、9月に卒業できる。

(「10. 9月卒業制度と卒業研究の履修方法」参照)

(3) 卒業要件

卒業するためには4年以上在学し、次に定める単位を修得しなければならない。

科目区分			単位数		
			必修	選択	合計
全学共通科目			1	7	124
専門教育科目	LC ラーニング・クラスター	LC1 アカデミック・リテラシー★	2	6	
		LC2 英語コミュニケーション★	6		
				4	
				4	
		LC3 地域実践力		8	
				8	
		LC4 学部基盤科目		8	
		Br ブリッジ科目		12	
		Pgm 専門プログラム		20	
		Fr 自由選択科目(自由選択言語科目を含む)		26	
		Sr 演習★	4		
		Ts 卒業研究★	8		

★は自由選択科目として認められない科目

* 1科目の単位数

全学共通科目:身体運動科学は前後期通年で2単位。その他の科目は1科目で2単位(15週)と1単位(8週)がある。

* 専門教育科目:演習と大部分の語学科目は1単位。講義科目は2単位。卒業研究は8単位。

* 全学共通科目については、第一部門の「数理・データサイエンス・AI入門」(1単位)および「しずおか学」科目群のうちから2単位以上を修得しなければならない。

* 専門教育科目の構成は以下のとおりである。

LC1 アカデミック・リテラシー:学科別の基本的な科目(「コンピュータ・リテラシー」は必修)
 LC2 英語コミュニケーション:英語科目(ただし、「フレッシュマンイングリッシュIA・B」「フレッシュマンイングリッシュII A・B」と「英語コミュニケーションA・B」は必修)
 LC3 地域実践力:「地域言語」(中国語、韓国語、フィリピン語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、日本語(留学生のみ))及び「地域研究・フィールドワーク」
 LC4 学部基盤科目:国際関係学部の学生全員を対象とする共通科目
 Br ブリッジ科目:アカデミック・リテラシーと専門プログラムの橋渡しになる科目
 学科別に指定された科目から選択して履修する

Pgm 専門プログラム: プログラム別の専門度の高い科目 国際関係学科: 国際公共政策、国際開発、共生社会 国際言語文化学科: グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究
Fr 自由選択科目: LC1アカデミック・リテラシーとLC2英語コミュニケーションとLC3地域実践力の地域言語に指定された授業科目を除いたすべての国際関係学部専門教育科目(自由選択言語科目を含む)及び全学共通科目から自由に選択して履修する授業科目
Sr 演習: 指導教員のゼミ(原則として第2・第4火曜日の3・4時限)
Ts 卒業研究: 卒業論文作成

① 必修科目

以下の20単位はすべての学生に必修である。

コンピュータ・リテラシー	2単位 (LC1 アカデミック・リテラシー)
フレッシュマンイングリッシュⅠA・B(各1単位)	2単位 (LC2英語コミュニケーション)
フレッシュマンイングリッシュⅡA・B(各1単位)	2単位 (LC2英語コミュニケーション)
英語コミュニケーションA・B(各1単位)	2単位 (LC2英語コミュニケーション)
演習ⅠA・B(各1単位)	2単位
演習ⅡA・B(各1単位)	2単位
卒業研究	8単位

② 選択科目

専門教育科目のLC1～4、ブリッジ科目、専門プログラムから、それぞれ所定の単位を選択し、70単位を履修する。70単位の内訳は以下のとおり。

LC1アカデミック・リテラシー・・・6単位(コンピュータ・リテラシー・・・2単位は除く)

LC2英語コミュニケーション・・・8単位(課題探究型英語Ⅰ・・・4単位／課題探究型英語Ⅱ・・・4単位)
(「フレッシュマンイングリッシュⅠA・B」「フレッシュマンイングリッシュⅡA・B」「英語コミュニケーションA・B」は除く)

LC3地域実践力・・・16単位(地域言語・・・8単位／地域研究・フィールドワーク・・・8単位)

LC4学部基盤科目・・・8単位

ブリッジ科目・・・12単位

専門プログラム・・・20単位

③ 自由選択科目

自由選択科目の必要単位数は26単位である。以下の科目が自由選択科目として認められる。

A. LC1アカデミック・リテラシーとLC2英語コミュニケーションとLC3地域実践力の地域言語に指定された授業科目を除いたすべての国際関係学部専門教育科目(自由選択言語科目を含む)

B. 全学共通科目

【注意】

- 上記のA.については、各科目に設定された卒業に必要な単位数をこえて修得された単位のすべてが自由選択科目の単位として認定される。
- 上記のB.については、全学共通科目に設定された卒業に必要な単位数＝8単位をこえて修得された8単位までが自由選択科目の単位として認定される。したがって、卒業に必要な単

位として認められる全学共通科目は「全学共通科目としての8単位＋自由選択科目としての8単位の計16単位」である。

9. 卒業研究

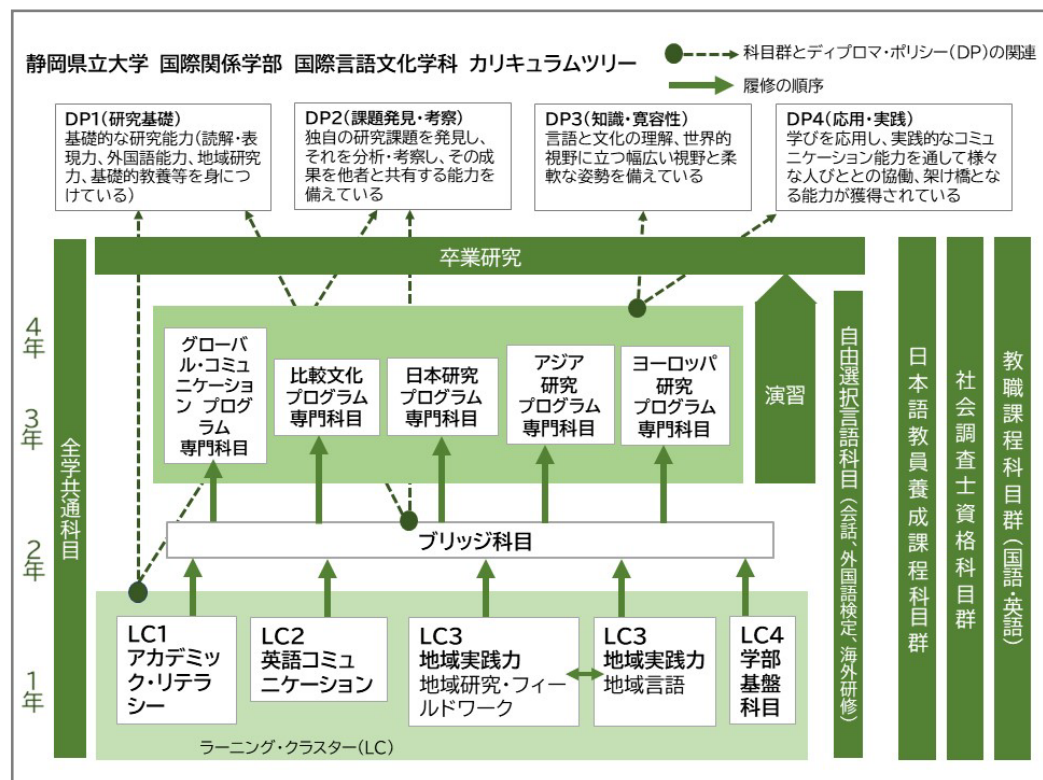
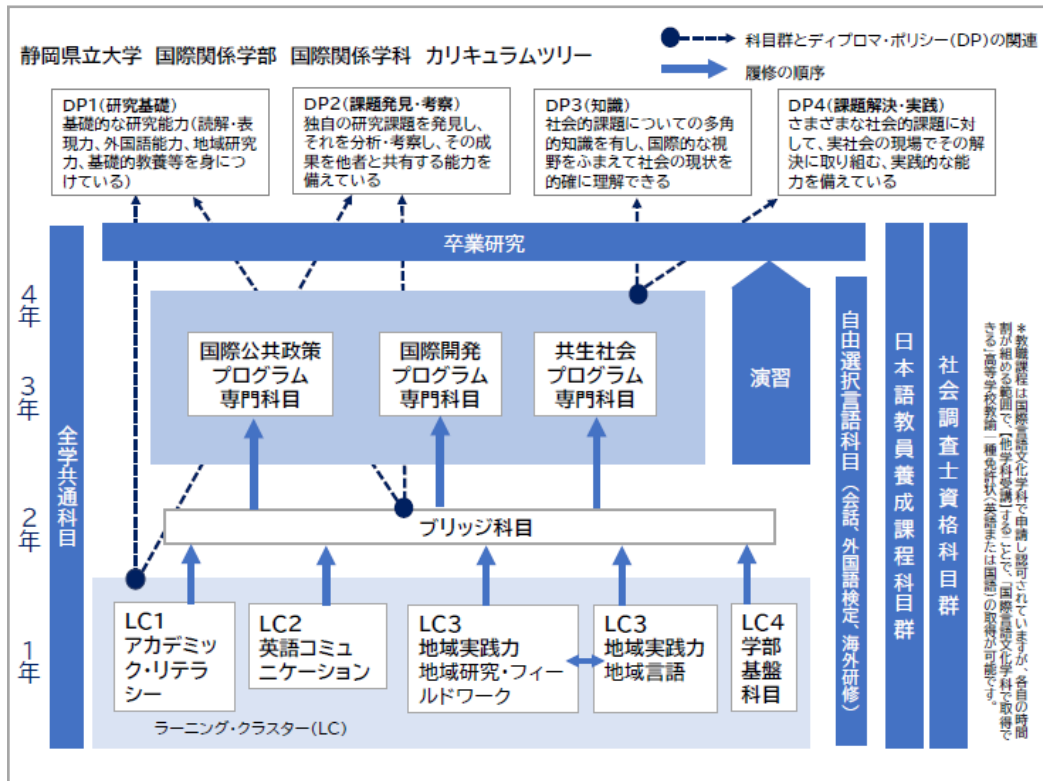
本学部における卒業研究の取り扱いについては、学則に定めるもののほか、履修細則第24条による。

- ① 卒業研究は論文とする。
- ② 論文の分量は、(和文)12,000字以上、または(英文)4,000語以上とし、規格、様式、書式等については、指導教員の指示に従うこと。
- ③ 論文の提出日時は卒業年次1月11日と12日の午後1時～5時とする。ただし、当日が土曜日・日曜日または祝日の場合は国際関係学部教務委員会が決定した日時とする。
- ④ 論文の提出先は学生室とする。
- ⑤ 論文の審査は2人以上の教員(原則として専任)があたり、学生室の定める日までに成績を提出する。
- ⑦ この内規の運用は国際関係学部教務委員会が対応する。

10. 9月卒業制度と卒業研究の履修方法

- (1) 9月卒業を希望する者は、4月の履修登録時にその旨を学生室に必ず申告し、受理されなければならない。
- (2) 9月卒業を希望する者は、4月に演習指導教員(やむをえない場合には副学部長または所属する学科の学科主任)に相談し必ず了解を得る。
- (3) 9月卒業を希望する際の必要要件が卒業研究の単位修得でもかまわない。
ただし卒業研究は合算して1年の履修期間を満たしていることが必要である。
- (4) 9月卒業を希望する者の卒業研究(論文)の提出締切は7月31日午後1～5時とする。ただし、当日が土曜日・日曜日の場合は、直近の金曜日の同時刻とする。論文の分量および論文審査方法等については「9. 卒業研究」と同じである。9月卒業希望者の成績は8月下旬までに提出される。
- (5) 自分の希望する卒業方法につき疑問のある場合は、演習指導教員を通じて国際関係学部教務委員会に問い合わせや相談をおこなう。

カリキュラムツリー(4年間のカリキュラムの流れ)



11. 教職課程

教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法に基づき、本学に設置してある教職課程において所定の単位を修得しなければならない。

(1) 免許状の種類と免許教科

学 科	免許状の種類	免許教科
国際言語文化学科〔国語コース〕	高等学校教諭一種免許状	国 語
国際言語文化学科〔英語コース〕	高等学校教諭一種免許状	英 語

(2) 基礎資格と最低単位数

免許状の種類	所要資格		
高等学校教諭 一種免許状	基礎資格		学士の学位を 有すること
	本学におけ る最低修 得単位数	教科及び教科の指導法に関する科目	24
		教育の基礎的理解に関する科目	11
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10
		教育実践に関する科目	5
		大学が独自に設定する科目	12
		教職関連科目	8

(3) 教科及び教科の指導法に関する科目の授業科目名及び単位数

【国語】 *は必修科目

免許法による教科に関する科目		本学授業科目	単位	最低 単位数	本学 単位数
教科 に 関 する 専 門 的 事 項	国 語 学 (音声言語及び文章表現に関する ものを含む)	*日本語学概論A	2	24	24
		*日本語学概論B	2		
		*日本語表現法ⅠA	2		
		*日本語表現法ⅠB	2		
		音声言語	2		
		日本語史A	2		
		日本語文法論A	2		
		日本語学特殊研究	2		
		日本語表現法ⅡA	2		
	国 文 学 (国文学史を含む)	*日本文学史A	2		
		*日本文学史B	2		
		*日本文学研究ⅡA	2		
		*日本文学研究ⅡB	2		
		日本古典文学研究A	2		
		日本近代文学研究A	2		
		日本文学特殊研究	2		
	漢 文 学	*漢文学概論ⅠA	2		
		*漢文学概論ⅠB	2		
		漢文学概論Ⅱ	2		
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		*国語科教育法A	2		
		*国語科教育法B	2		

【英語】 ＊は必修科目

免許法による教科に関する科目		本学授業科目	単位	最低 単位数	本学 単位数
教科に関する専門的事項	英 語 学	*英語学概論A	2	24	24
		*英語学概論B	2		
		*英文法A	2		
		英文法B	2		
		*英語音声学I	2		
		英語音声学II	2		
		教育言語学概論A	2		
		教育言語学概論B	2		
	英 語 文 学	*英米文学概論A	2		
		英米文学概論B	2		
		*英米文学史A	2		
		英米文学史B	2		
	英語コミュニケーション	*英語表現法A	2		
		英語表現法B	2		
		*英語リテラシースキル	2		
	異文化理解	*英米文化論A	2		
英米文化論B		2			
オーストラリア文化論A		2			
オーストラリア文化論B		2			
*異文化コミュニケーションA		2			
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)		*英語科教育法A	2		
		*英語科教育法B	2		

(4) 教育の基礎的理解に関する科目等の授業科目名及び単位数

*は必修科目

	免許法による教職に関する科目	本学授業科目	単位	最低単位数	本学単位数
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	*教育原理A	2	10	11
		*教育原理B	2		
		*教師論	2		
		*教育社会学	2		
		*教育心理学	2		
		*特別支援教育	1		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	*総合学習の指導法	2	8	10
		*教育課程・特別活動論	2		
		*教育方法	1		
		*教育における情報通信技術の活用	1		
		*生徒指導・進路指導論	2		
		*学校カウンセリング	2		
	教育実践に関する科目	*教育実習Ⅰ	2	5	5
		*教育実習Ⅱ	1		
		*教職実践演習(高)	2		
	大学が独自に設定する科目	青年心理学	2	12(注)	12(注)
教職関連科目	日本国憲法	*日本国憲法AまたはB	2	2	2
	体育	*身体運動科学AまたはB	2	2	2
	外国語コミュニケーション	*フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	2	2
		*フレッシュマンイングリッシュⅠB	1		
	数理、データ活用及び人工智能に関する科目又は情報機器の操作	*コンピュータ・リテラシー	2	2	2

(注1) 「大学が独自に設定する科目」の選択科目、又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」について、併せて12単位以上を修得すること。

(注2) 「教育方法」と「教育における情報通信技術の活用」は、2024年度の時間割では、後期/金曜/1時間目の前半期に「教育方法」が、後半期に「教育における情報通信技術の活用」が配置されており、これら2科目は、他の後期科目と同様に、後期科目の履修登録期間に履修登録すること。

【注意】

- ① 入学年度により履修できる科目は異なるので、注意して履修すること。
- ② 教職科目は配当年次以外では履修できない可能性がある。確実に免許状を取得するために、配当年次で必要な教職科目の単位を修得するよう、計画的に履修を行うこと。
- ③ 教育実習Ⅰを履修できる学生は、原則として、教育実習Ⅰを履修するまでに「教師論」、「教育原理A・B」、「教育心理学」及び「教科教育法A・B」の単位をすべて修得し、かつ大学の行う事前指導を受けた者とする。ただし、卒業の見込みがない学生は、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習(高)を履修できない場合がある。
- ④ 教育実習Ⅰを履修するためには、その前年度のうちに実習校へ申請し、実習校の校長先生に教育実習受け入れの内諾をいただく必要がある。また、教育実習Ⅰを履修する学生は、原則として、公立高校の教員採用試験を受験すること。
- ⑤ 教育職員免許状一括申請について
卒業(修了)予定者で教育職員免許法に規定する所要資格を有する者は、免許状授与申請ができる。一括申請とは、大学が免許状取得有資格者をとりまとめて、免許状の授与権者である静岡県教育委員会へ免許状授与の申請をすることである。一括申請手続を行わない場合は、卒業式以後各人が居住地の教育委員会に申請し、教員免許状を取得することとなる。詳細は別途、Web学生サービス支援システム等により連絡する。
- ⑥ 教員免許更新制が2009(平成21)年4月より導入・実施され、取得した教員免許には有効期間が記され、有効期間内に一定の講習を受けることを義務付けられてきたが、2022(令和4年)7月1日の法改正により、教員免許更新制は廃止され、この日以降に取得された教員免許は、とくに手続きなしで生涯有効(有効期間の定めなし)となった。
- ⑦ 教職履修カルテについて
教育職員免許法施行規則改正に伴い、教職課程履修開始時より「履修カルテ」を作成する必要がある。教員免許取得までの学習状況をきめ細かく把握するために、カルテは学生が作成し、自己管理する。カルテは、毎学期終了後に電子ファイルで提出するとともに、4年生の後期に開講される「教職実践演習(高)」の履修前に、すべてのカルテをファイルにまとめ、提出してもらう。履修カルテの提出がない場合、「教職実践演習(高)」の履修は認められないので、十分注意すること。詳しくは、毎学期終了後にWeb学生サービス支援システム等で案内する。
- ⑧ 教職課程を履修する学生は、履修登録時に、「教職課程」という仮の科目(時間割にはない、実習科目)に履修登録をすること。これにより教職課程の履修の意思を確認するの

で、毎年度、履修登録をする必要がある。履修登録をしていない場合、教職課程に関する案内が届かず、履修カルテの提出ができないので注意すること。

（注）教員採用試験については、実施する都道府県や政令市により、日程が異なる。出願期間、1次試験、2次試験等の日程を、それぞれ^{その}の教育委員会のホームページ等で確認すること。

なお、公立学校の教員採用試験、私学協会等による私学適性検査の検査日は、例年に比べ、日程が早められている傾向があるので、注意すること。

日本語教員養成課程(2025年度入学生)

日本語教員養成課程を履修しようとする者は、以下の表に定める日本語教員養成課程の授業科目を履修しなければならない。

区分	修了要件	履修方法	課程科目名	単位数
社会・文化・地域	4単位以上 (必修4単位含)	必修 4	日本語教育学A	2
			多文化共生論A	2
		選択	多文化共生論B	2
			比較文化論B	2
言語と社会	4単位以上 (必修4単位含)	必修 4	異文化コミュニケーションA	2
			日本語表現法ⅡB	2
		選択	コミュニケーション論A	2
			コミュニケーション論B	2
			比較文化入門Ⅱ	2
			異文化コミュニケーションB	2
			人類と文化A	2
			比較言語論A	2
			日本語表現法ⅠB	2
言語と心理	4単位以上 (必修4単位含)	必修 4	ことばと心理A	2
			ことばと心理B	2
		選択	(教職)教育心理学	2
			日本語表現法ⅠA	2
			比較言語論B	2
			社会心理学入門	2
言語と教育	8単位以上 (必修8単位含)	必修 8	日本語教育学B	2
			日本語教授法B	2
			日本語教育実践研究(日本語教育実習)(配当年次4年)	2
			コンピュータ・リテラシー	2
		選択	(教職)教育方法	1
			教育と共生	2
言語	12単位以上 (必修12単位含)	必修12	日本語教授法A	2
			日本語学概論A	2
			日本語学概論B	2
			日本語文法論A	2
			言語学概論Ⅰ	2
			言語学概論Ⅱ	2
		選択	日本語文法論B	2
			音声言語	2
			日本語学特殊研究	2
合計	32単位以上			

・修了するためには、上の表に規定する単位数を含み、32単位以上を修得しなければならない。

・上記の要件を満たした者には、卒業時に日本語教員養成課程修了証明書を発行する。

・本課程は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版」(平成31年3月4日)文化審議会国語分科会で示された必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程である。

・本課程は、経過措置期間内に登録日本語教員養成機関への申請を検討している。ただし、申請した場合も文部科学省における審査の結果により、開設できない可能性がある。

・下記5科目は、以下の順序による履修を推奨する。

「日本語教育学A」⇒「日本語教育学B」⇒「日本語教授法A」⇒「日本語教授法B」⇒「日本語教育実践研究」

なお、「日本語教育実践研究」は、「日本語教育学A」「日本語教育学B」「日本語教授法A」「日本語教授法B」を事前に履修していない場合には、受講できない。

・「教育心理学」「教育方法」は教職に関する科目のため、卒業要件単位には算入されない。

授業科目一覽

■ 全学共通科目

■ 国際関係学科専門教育科目

■ 国際言語文化学科専門教育科目

■ 教職科目

令和7年度全学共通科目

※表中、「相当科目」欄に記載された科目の単位を修得した場合は、同一行の「科目名」に記載された科目を履修できないので留意してください。

部 門	科 目 名	単 位 数	担当教員 (<i>斜体</i> は非常勤講師)	*相当科目
スタ ディ ・ ス キ ル と 第1部門	ドイツ語入門	2	小谷民菜	
	フランス語入門	2	<i>山本ひとみ</i>	
	スペイン語入門	2	<i>杉田和歌子</i>	
	中国語入門	2	<i>王元武</i>	
	日本語作文A	2	<i>逢坂里恵</i>	
	日本語作文B	2	<i>逢坂里恵</i>	
	中級日本語Ⅰ	2	<i>松尾佳代子</i>	
	中級日本語Ⅱ	2	<i>松尾佳代子</i>	
	数理・データサイエンス・AI入門	1	武藤伸明 ほか	
	【遠隔授業】【必修科目】※			
	ヒューマン・ケア	2	<i>飯島本子</i>	
	TOEFL留学英語Ⅰ	1	藤森敦之	TOEFL留学英語
	TOEFL留学英語Ⅱ	1	藤森敦之	
第2部門 (概論)	TOEICビジネス基礎英語	1	<i>堀内裕晃</i>	
	TOEICビジネス英語Ⅰ	1	<i>山本好比古</i>	
	TOEICビジネス英語Ⅱ	1	<i>山本好比古</i>	
	自然科学概論	2	橋本博 ほか	
	化学入門	2	眞鍋敬 ほか	
	生物学入門	2	浅井知浩 ほか	
	薬剤発達史入門	2	内田信也 ほか	くすりと医療の歩み
	物理学入門	2	本同宏成 ほか	
	環境科学入門	2	谷幸則 ほか	自然と環境・環境と健康
	哲学入門	2	飯野勝己	
	社会思想史入門	2	犬塚協太	社会思想史
	歴史学入門	2	栗田和典	
	宗教学入門	2	<i>佐藤清子</i>	現代の問題と宗教
	社会学入門	2	石井由香	グローバル社会学入門
	国際関係学入門	2	坂巻静佳 ほか	国際関係学への招待
	文化人類学入門	2	<i>金明美</i>	エスニシティ論、多文化共生論
	公共政策入門	2	藤本 健太郎	社会保障とソーシャルインクルージョン
	心理学入門	2	<i>西田公昭</i>	日常生活と心理学
	生涯発達心理入門	2	簗宗一 ほか	心の発達と行動
	知的財産管理入門	1	<i>居藤洋之</i>	

部 門	科 目 名	単 位 数	担当教員 (<u>倉佐</u> は非常勤講師)	*相当科目
第 3 部 門 (現 代 教 養)	国際安全保障入門Ⅰ	2	西 恭 之	
	国際安全保障入門Ⅱ	2	西 恭 之	
	くらしと化学A	1	近藤啓 ほか	
	くらしと化学B	1	近藤啓 ほか	
	実用科学英語基礎編	2	太田敏郎	
	実用科学英語応用編	2	太田敏郎	
	基礎生命科学Ⅰ 【英語による科目】	2	太田敏郎	
	基礎生命科学Ⅱ 【英語による科目】	2	太田敏郎	
	現代日本文化入門A 【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス	
	現代日本文化入門B 【英語による科目】	1	ファイファー・マティアス	
	経営分析入門A 【英語による科目】	1	上野、竹下	
	経営分析入門B 【英語による科目】	1	上野、竹下	
	英語で学ぶ日本語学ⅠA 【英語による科目】	1	藤森敦之	
	英語で学ぶ日本語学ⅠB 【英語による科目】	1	藤森敦之	
	英語で学ぶ日本語学ⅡA 【英語による科目】	1	<u>吉村紀子</u>	
	英語で学ぶ日本語学ⅡB 【英語による科目】	1	<u>吉村紀子</u>	
	言語の学習・習得ⅠA 【英語による科目】	1	<u>吉村紀子</u>	言語の学習・習得 A
	言語の学習・習得ⅠB 【英語による科目】	1	<u>吉村紀子</u>	言語の学習・習得 B
	言語の学習・習得ⅡA 【英語による科目】	1	藤森敦之	
	言語の学習・習得ⅡB 【英語による科目】	1	藤森敦之	
	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】	2	森本達也 ほか	
	静岡の防災と医療 【しずおか学】	2	森本達也 ほか	
	静岡地域食材学A 【しずおか学】	1	三好規之 ほか	
	静岡地域食材学B 【しずおか学】	1	江口智美 ほか	
	茶学入門 【しずおか学】	2	中村順行	
	ムセイオン静岡 ― MUSEUMと文化A 【しずおか学】	1	<u>立田洋司</u>	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化A
	ムセイオン静岡 ― MUSEUMと文化B 【しずおか学】	1	<u>立田洋司</u>	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化B
	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産A 【しずおか学】	1	<u>立田洋司</u>	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅠ 世界の文化遺産A
	ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産B 【しずおか学】	1	<u>立田洋司</u>	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ 世界の文化遺産B
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術A 【しずおか学】	1	<u>立田洋司</u>	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ 舞台芸術A
	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術B 【しずおか学】	1	<u>立田洋司</u>	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ 舞台芸術B
	静岡の市民活動 【しずおか学】	1	木村綾	
	歴史からみるしずおか学 【しずおか学】	2	上野雄史、村橋勲	
	新聞でもっと静岡を知ろう 【しずおか学】	2	上原克仁 ほか	
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線 【しずおか学】	2	上原克仁 ほか	
	SDGs概論 【しずおか学】	2	近藤啓 ほか	
	ふじのくにが「ストロミナリズム」：観る・食べる・学ぶ 【しずおか学】	2	大久保あかね ほか	
	静岡ゲームチャリティー実践 【しずおか学】	2	ディハーンジョナサン	
	静岡「知」各論-食品環境科学と地域企業の視点から- 【しずおか学】	2	伊藤創平 ほか	
総 合 科 目	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ 【しずおか学】	2	横井 香織 ほか	
	ふじのくに学（富士山学概論） 【しずおか学】	2	鴨川仁 ほか	
	ふじのくに学（お茶） 【しずおか学】	2	中村順行 ほか	
	ふじのくに学（観光学） 【しずおか学】	1	大久保あかね ほか	
	ふじのくに学（演劇論） 【しずおか学】	2	宮城聡（静岡英和学院大学） ほか	
	ふじのくに学（南アルプスの自然） 【しずおか学】	1	静岡大学教員 ほか	
	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション） 【しずおか学】	2	静岡産業大学教員 ほか	
	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅡ） 【しずおか学】	2	静岡産業大学教員 ほか	
	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅢ） 【しずおか学】	2	静岡産業大学教員 ほか	
	ふじのくに学（農林業） 【しずおか学】	1	静岡大学教員 ほか	
	ふじのくに学（森林生態系からの恵み） 【しずおか学】	1	静岡大学教員 ほか	
	ふじのくに学（伊豆の温泉と産業おこし） 【しずおか学】	2	楠城一嘉、鴨川仁 ほか	
	ふじのくに学（魅力ある食と地域づくり） 【しずおか学】	2	大久保あかね ほか	
	ふじのくに学（静岡県西部地域の特性と産業） 【しずおか学】	2	静岡文化芸術大学教員 ほか	
	健康イノベーション教育プログラム 【しずおか学】	2	新井英一 ほか	
	キャリアデザイン概論	2	東野 定律	
	男女共同参画社会とジェンダー	2	大塚協太 ほか	
	人権を支える社会	2	坪田光平	人権問題を考える
	ジャーナリズム論	2	西 恭 之 ほか	
	キャリアと社会*1	2	羽衣国際大学教員 ほか	
	高野山で学ぶキャリアとわたし*1	2	高野山大学教員 ほか	

※しずおか学科目群から2単位以上を卒業までに修得すること。

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部・学部の定めによる。

*1南大阪地域大学コンソーシアムの科目。

国際関係学部 国際関係学科 専門教育科目												
科目群		科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ					
				必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4		
ラーニングクラスター（46単位）	LC1 アカデミック・リテラシー （8単位）	国際政治入門Ⅰ	1・2		2	佐藤真	○	○				
		国際政治入門Ⅱ	1・2		2	今年度開講せず(山本)	○	○				
		国際政治入門Ⅲ	1・2		2	小窪	○	○				
		国際政治入門Ⅳ	1・2		2	今年度開講せず	○	○				
		政治学入門	1・2		2	前山	○	○				
		外交史入門	1・2		2	森山	○	○				
		国際法学入門	1・2		2	坂巻	○	○				
		障害学入門	1・2		2	二羽	○	○				
		家族・ジェンダー論入門	1・2		2	犬塚	○	○				
		グローバル化と地域社会	1・2		2	高畑	○	○				
		実践的文章論A・B	1・2		各2	飯野勝	○	○				
		ベーシック・スタディⅠ	1・2		2	宮崎	○	○				
		ベーシック・スタディⅡ	1・2		2	飯野光	○	○				
		ベーシック・スタディⅢ	1・2		2	青山	○	○				
		コンピュータ・リテラシー	1・2	2		青山・天野・竹内・坂本	○	○				
		社会調査法入門	1・2		2	坪田	○	○				
		社会統計学ⅠA・B	1・2		各2	坂本剛	○	○				
		日本語教育学A	1・2		2	酒井	○	○				
		日本文学研究ⅠA・B	1・2		各2	A:鈴木さ B:細川	○	○				
		LC2 英語コミュニケーション （14単位）	必修英語 （6単位）	フレッシュマンイングリッシュⅠA・B	1	各1		Hernandez・Lawrence Knowles・Mostafanezhad	○	○		
	フレッシュマンイングリッシュⅡA・B			1	各1		岡村・白畑・大瀧・田村望	○	○			
	英語コミュニケーションA・B			2	各1		Hernandez・Suzuki・田中 Figer・青島	○	○			
	課題探究型英語Ⅰ （4単位）		英会話A・B	1・2		各1		Knowles・Hernandez Mostafanezhad・Lawrence	○	○		
			英作文A・B	1・2		各1		米山・岡村・白木・白畑・Arshavskaia・Figer	○	○		
			英語プレゼンテーションA・B	2・3		各1		A:ディハーン・Knowles B:リダン・Knowles	○	○		
			PBL EnglishⅠA・B	1・2		各2		リダン・グランドン	○	○		
	課題探究型英語Ⅱ （4単位）		英語アクティブラーニング	1・2		2		澤田・岡村・寺尾	○	○		
			時事英語	2・3		2		澤田・寺尾	○	○		
			英語で読む国際関係入門A・B	1・2		各1		A:栗田・澤田・北野・村橋・近藤 B:澤田・飯野光・青山・近藤	○	○		
			PBL EnglishⅡA・B	2・3		各2		ディハーン	○	○		
			LC3 地域実践力 （16単位）	地域言語 （8単位）	中国語ⅠA・B	1		各1	王	○	○	
	中国語ⅡA・B				1		各1	奈倉	○	○		
	中国語ⅢA・B				2		各1	王	○	○		
	中国語ⅣA・B				2		各1	大野	○	○		
	韓国語ⅠA・B				1		各1	小針・金	○	○		
	韓国語ⅡA・B				1		各1	小針・金	○	○		
	韓国語ⅢA・B				2		各1	小針	○	○		
	韓国語ⅣA・B	2				各1	小針・金	○	○			

履 修 方 法

LC1アカデミック・リテラシー

国際関係学科においては、国際関係学科LC1アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

LC2英語コミュニケーション

(1)フレッシュマンイングリッシュⅠA・B、フレッシュマンイングリッシュⅡA・B及び英語コミュニケーションA・Bのすべてを修得しなければならない。

(2)課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。
また、PBL EnglishⅠA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

(3)課題探究型英語Ⅱに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。
また、PBL EnglishⅡA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

LC3地域実践力

(1)地域言語に指定された科目である、中国語ⅠA・B～ⅣA・B、韓国語ⅠA・B～ⅣA・B、フィリピン語ⅠA・B～ⅣA・B、ドイツ語ⅠA・B～ⅣA・B、フランス語ⅠA・B～ⅣA・B、スペイン語ⅠA・B～ⅣA・B、ロシア語ⅠA・B～ⅣA・B、日本語ⅠA・B～ⅣA・Bのうちから1言語8単位を修得しなければならない。ただし、日本語ⅠA・B～ⅣA・Bは留学生に限る。いずれの言語も同一年度内にⅠA・B、ⅡA・B(またはⅢA・B、ⅣA・B)と連続して履修しなければならない。

(2)地域研究・フィールドワークに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

国際関係学部 国際関係学科 専門教育科目											
科目群			科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
					必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
ラーニングクラスター（46単位）	LC3（16単位） 地域実 践力	地域言語 (8単位)	フィリピン語ⅠA・B	1		各1	米野	○	○		
			フィリピン語ⅡA・B	1		各1	ベントウラ	○	○		
			フィリピン語ⅢA・B	2		各1	ベントウラ	○	○		
			フィリピン語ⅣA・B	2		各1	ベントウラ	○	○		
			ドイツ語ⅠA・B	1		各1	小柴	○	○		
			ドイツ語ⅡA・B	1		各1	ファイファー	○	○		
			ドイツ語ⅢA・B	2		各1	小谷	○	○		
			ドイツ語ⅣA・B	2		各1	ファイファー	○	○		
			フランス語ⅠA・B	1		各1	セブラン	○	○		
			フランス語ⅡA・B	1		各1	関	○	○		
			フランス語ⅢA・B	2		各1	矢田	○	○		
			フランス語ⅣA・B	2		各1	剣持	○	○		
			ロシア語ⅠA・B	1		各1	広岡	○	○		
			ロシア語ⅡA・B	1		各1	川畑	○	○		
			ロシア語ⅢA・B	2		各1	堀内	○	○		
			ロシア語ⅣA・B	2		各1	川畑	○	○		
			スペイン語ⅠA・B	1		各1	森	○	○		
			スペイン語ⅡA・B	1		各1	キロス	○	○		
			スペイン語ⅢA・B	2		各1	杉田	○	○		
			スペイン語ⅣA・B	2		各1	照屋	○	○		
			日本語ⅠA・B	1		各1	松尾	○	○		
			日本語ⅡA・B	1		各1	鈴木加	○	○		
			日本語ⅢA・B	2		各1	松尾	○	○		
			日本語ⅣA・B	2		各1	鈴木加	○	○		
		地域研究・フィールドワーク (8単位)	現代アメリカ論A・B	1・2		各2	佐藤真	○	○		
			現代ロシア・東欧論A・B	1・2		各2	浜	○	○		
			現代中国論A・B	2・3		各2	大野	○	○		
			現代韓国朝鮮論A・B	2・3		各2	奥園	○	○		
			現代ヨーロッパ論A・B	1・2		各2	小窪	○	○		
			現代東南アジア論A・B	2～4		各2	吉田航	○	○		
			中東アフリカ論A・B	1・2		各2	山本	○	○		
			フィールド・スタディA・B	1～3		各2	孫	○	○		
	フィールドワークⅠ		1～3		2	湖中	○	○			
	フィールドワークⅡA・B		2～4		各2	村橋・湖中・孫	○	○			
	学部基礎科目 LC4（8単位）	国際政治学A・B	1・2		各2	A:浜 B:山本	○	○			
		人類と文化A・B	1・2		各2	富沢	○	○			
		国際関係論A・B	1・2		各2	A:小窪 B:飯野光	○	○			
日本文化論A・B		1・2		各2	吉田真	○	○				
ことばと心理A・B		1・2		各2	寺尾	○	○				
ブリッジ科目 (12単位)	国際政治概論A・B	2		各2	山下			○	○		
	国際関係史A・B	1・2		各2	A:佐藤真 B:森山			○	○		
	政治学	1・2		2	前山			○	○		
	社会政策論A・B	2・3		各2	埋樋			○	○		
	マクロ経済学A・B	1・2		各2	A:岸 B:野口			○	○		
	ミクロ経済学A・B	1・2		各2	萱			○	○		
	経済政策入門A・B	1・2		各2	小塚			○	○		
	組織マネジメント入門A・B	1・2		各2	宮崎			○	○		
	国際法Ⅰ	1・2		2	坂巻			○	○		
	法学概論A・B	1・2		各2	石川			○	○		
	日本国憲法A・B	2		各2	鈴木隆			○	○		
	民法A・B	2		各2	志村			○	○		
	国際社会学	1・2		2	石井			○	○		
	人種と民族の社会学A・B	1・2		各2	二羽			○	○		
	社会心理学入門	1・2		2	坂本剛			○	○		
	社会統計学Ⅱ	2・3		2	坂本剛			○	○		
	質問票調査法	2・3		2	坂本剛			○	○		

履 修 方 法

LC4学部基盤科目

国際政治学A・B, 人類と文化A・B, 国際関係論A・B, 日本文化論A・B, ことばと心理A・Bのうちから8単位を修得しなければならない。

ブリッジ科目

国際関係学科においては, 国際関係学科ブリッジ科目に指定された科目のうちから12単位を修得しなければならない。

国際関係学科ブリッジ科目のうち, 以下の科目は経営情報学部開講の科目による読み替えを行っている。

経営情報学部での開講科目名 は以下のとおり。

「マクロ経済学A」:基礎経済学(経営情報学部)

「マクロ経済学B」:計量経済学(経営情報学部)

「ミクロ経済学A」:ミクロ経済学(経営情報学部)

「ミクロ経済学B」:応用経済学(経営情報学部)

国際関係学部 国際関係学科 専門教育科目										
科目群		科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
				必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
専門プログラム（20単位）	国際公共政策（20単位）	国際法Ⅱ	2～4		2	坂巻			○	○
		国際法Ⅲ	2～4		2	坂巻			○	○
		国際法Ⅳ	3・4		2	坂巻			○	○
		国際経済法ⅠA・B	2～4		各2	石川			○	○
		国際経済法Ⅱ	3・4		2	石川			○	○
		国際組織法A・B	2～4		各2	北野			○	○
		安全保障論A・B	2～4		各2	山下			○	○
		日本外交論A・B	2～4		各2	森山			○	○
		比較政治論A・B	2～4		各2	前山			○	○
		アメリカ政治外交	2～4		2	今年度開講せず(佐藤真)			○	○
		ヨーロッパ政治外交A・B	2～4		各2	A:今年度開講せず(小窪) B:浜			○	○
		中東政治外交	2～4		2	山本			○	○
		政治思想史A・B	2～4		各2	松森			○	○
		国際思想史A・B	3・4		各2	松森			○	○
		アジア地域協力論A・B	2～4		各2	塩崎			○	○
		アジアにおけるロシア	2～4		2	堀内			○	○
		現代中国の諸相A・B	2～4		各2	大野			○	○
		援助プログラム評価論A・B	2～4		各2	小塚			○	○
		開発金融論A・B	2～4		各2	大金ほか			○	○
		行政法A・B	2～4		各2	小泉			○	○
		商法A・B	3・4		各2	小林			○	○
	国際開発（20単位）	援助プログラム評価論A・B	2～4		各2	小塚			○	○
		開発金融論A・B	2～4		各2	大金ほか			○	○
		開発経済学A・B	2～4		各2	飯野光			○	○
		多国籍企業論A・B	2～4		各2	宮崎			○	○
		プロジェクト・ファイナンス論A・B	2～4		各2	大金ほか			○	○
		開発人類学Ⅰ	2～4		2	湖中			○	○
		開発人類学Ⅱ	2～4		2	村屋			○	○
		開発人類学Ⅲ	2～4		2	孫			○	○
		グローバル化の人類学	2～4		2	湖中			○	○
		災害人類学	2～4		2	孫			○	○
		観光人類学	2～4		2	川崎			○	○
		文化遺産の人類学	2～4		2	比留間			○	○
		国際経営論A・B	2～4		各2	今年度開講せず(宮崎)			○	○
		国際法Ⅱ	2～4		2	坂巻			○	○
		国際法Ⅲ	2～4		2	坂巻			○	○
		国際経済法ⅠA・B	2～4		各2	石川			○	○
		国際組織法A	2～4		2	北野			○	○
		東南アジア文化論A・B	2～4		各2	米野			○	○
		東南アジア社会論	2～4		2	塩崎			○	○
		アジア地域協力論A・B	2～4		各2	塩崎			○	○
	共生社会（20単位）	マイグレーション論	2～4		2	福嶋			○	○
		ナショナリズム論	2～4		2	石井			○	○
		家族論A・B	2～4		各2	犬塚			○	○
		多文化共生論A・B	2～4		各2	高畑			○	○
		集団間関係論	3・4		2	坂本剛			○	○
		共生の社会学A・B	2～4		各2	二羽			○	○
		ジェンダー論A・B	2～4		各2	犬塚			○	○
		国際人権と障害	2～4		2	二羽			○	○
		生きづらさと支援	2～4		2	坪田			○	○
		教育と共生	2～4		2	橋本			○	○
		ウェルビーイングの心理学	2～4		2	園田			○	○
		異文化コミュニケーションA・B	3・4		各2	高畑			○	○
		メディア文化論A・B	2～4		各2	飯野勝			○	○
		文化遺産の人類学	2～4		2	比留間			○	○
		マイノリティ論A・B	2・3		各2	坪田			○	○

履 修 方 法

専門プログラム

国際関係学科においては、国際公共政策プログラム、国際開発プログラム、共生社会プログラムのうちのいずれかひとつのプログラムに指定された科目のうちから20単位を修得しなければならない。

国際関係学部 国際関係学科 専門教育科目										
科目群		科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
				必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
自由選択科目 (26単位)	自由選択言語科目	ドイツ語会話A・B	2		各1	トロスト			○	○
		フランス語会話A・B	2		各1	セブラン			○	○
		スペイン語会話A・B	2		各1	キロス			○	○
		検定英語	1～4		2～6	—			○	○
		検定ドイツ語	2～4		2～6	—			○	○
		検定フランス語	2～4		2～6	—			○	○
		検定スペイン語	2～4		2～6	—			○	○
		検定韓国語	2～4		2～6	—			○	○
		海外研修英語	1～4		1～6	—			○	○
		海外研修中国語	1～4		2	—			○	○
		海外研修ドイツ語	1～4		2～4	—			○	○
		海外研修フランス語	1～4		2～4	—			○	○
		海外研修スペイン語	1～4		2～4	—			○	○
		海外研修韓国語	1～4		4～8	—			○	○
		本表に記載された科目のうち、アカデミック・リテラシー、英語コミュニケーション、地域言語、演習及び卒業研究に分類された授業科目を除くすべての科目並びに全学共通科目			各1～2				○	○
演習(4単位)		演習ⅠA・B	3	各1		各教員			○	○
		演習ⅡA・B	4	各1		各教員			○	○
卒業研究(8単位)						各教員			○	○

*DP=ディプロマ・ポリシー。詳細は以下を参照。

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/#90c19407>

履 修 方 法

自由選択科目

LC1アカデミック・リテラシーとLC2英語コミュニケーションとLC3地域実践力の地域言語の科目群に分類指定された授業科目を除いたすべての国際関係学部専門教育科目(自由選択言語科目を含む)及び全学共通科目のうちから、26単位を修得しなければならない。この26単位のうち全学共通科目は最大8単位までとする。したがって、卒業単位として認定される全学共通科目は最大16単位となる。

演習及び卒業研究

(1) 演習は演習ⅠA・B、演習ⅡA・Bをそれぞれ連続して2単位、合計4単位を履修しなければならない。卒業研究は8単位とする。

(2) 演習ⅠA・B、演習ⅡA・B、卒業研究は、履修を選択した専門プログラムに分類された科目を担当する教員の指導を受けなければならない。少なくとも演習ⅡA・Bと卒業研究は同一教員の指導を受けなければならない。

国際関係学部 国際言語文化学科 専門教育科目

科目群		科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
				必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
ラーニングクラスター（46単位）	LC1 アカデミック・リテラシー（8単位）	国際言語文化入門Ⅰ	1・2		2	澤田	○	○		
		国際言語文化入門Ⅱ	1・2		2	米山	○	○		
		国際言語文化入門Ⅲ	1・2		2	栗田	○	○		
		国際言語文化入門Ⅳ	1・2		2	今年度開講せず	○	○		
		比較文化入門Ⅰ	1・2		2	栗田	○	○		
		比較文化入門Ⅱ	1・2		2	米山	○	○		
		比較文化入門Ⅲ	1・2		2	志田	○	○		
		日本思想史A・B	1・2		各2	平山	○	○		
		ロシアの社会と文化	1・2		2	堀内	○	○		
		中華圏の社会と文化	1・2		2	奈倉	○	○		
		韓国朝鮮の社会と文化	1・2		2	小針	○	○		
		東南アジアの社会と文化	1・2		2	塩崎	○	○		
		文学と社会	1・2		2	小谷	○	○		
		歴史と社会	1・2		2	剣持	○	○		
		比較文学入門	1・2		2	森	○	○		
		映像と社会	1・2		2	ファイファー	○	○		
		ヨーロッパ文学入門	1・2		2	関	○	○		
		西洋古典入門	1・2		2	橋川	○	○		
		コンピュータ・リテラシー	1・2	2		青山・天野・竹内・坂本	○	○		
		日本語教育学A	1・2		2	酒井	○	○		
		日本文学研究ⅠA・B	1・2		各2	A:鈴木さ B:細川	○	○		
		社会調査法入門	1・2		2	坪田	○	○		
		社会統計学ⅠA・B	1・2		各2	坂本剛	○	○		
	LC2 英語コミュニケーション（14単位）	必修英語 (6単位)	フレッシュマンイングリッシュⅠA・B	1	各1	Hernandez・Lawrence Knowles・Mostafanezhad	○	○		
			フレッシュマンイングリッシュⅡA・B	1	各1	岡村・白畑・大瀧・田村望	○	○		
			英語コミュニケーションA・B	2	各1	Hernandez・Suzuki・田中 Figer・青島	○	○		
		課題探究型英語Ⅰ (4単位)	英会話A・B	1・2	各1	Knowles・Hernandez Mostafanezhad・Lawrence	○	○		
			英作文A・B	1・2	各1	米山・岡村・白木・白畑・Arshavskaia・Figer	○	○		
			英語プレゼンテーションA・B	2・3	各1	A:ディハーン・Knowles B:リダン・Knowles	○	○		
			PBL EnglishⅠA・B	1・2	各2	リダン・ <u>グランドン</u>	○	○		
		課題探究型英語Ⅱ (4単位)	英語アクティブラーニング	1・2	2	澤田・岡村・寺尾	○	○		
			時事英語	2・3	2	澤田・寺尾	○	○		
			英語で読む国際関係入門A・B	1・2	各1	A:栗田・澤田・北野・村橋・近藤 B:澤田・飯野光・青山・近藤	○	○		
			PBL EnglishⅡA・B	2・3	各2	ディハーン	○	○		

履 修 方 法

LC1アカデミック・リテラシー

国際言語文化学科においては、国際言語文化学科LC1アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

LC2英語コミュニケーション（2023年度・2024年度入学生）

（1）フレッシュマンイングリッシュⅠA・B、フレッシュマンイングリッシュⅡA・B及び英語コミュニケーションA・Bのすべてを修得しなければならない。

（2）課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。また、PBL EnglishⅠA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

（3）課題探究型英語Ⅱに指定された科目のうちから4単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則1科目とする。また、PBL EnglishⅡA・Bは必ずAを先に履修しなければならない。

国際関係学部 国際言語文化学科 専門教育科目

科目群			科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ					
					必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4		
ラーニングクラスター（46単位）	LC3 地域実践力	地域言語（8単位）	中国語ⅠA・B	1		各1	王	○	○				
			中国語ⅡA・B	1		各1	奈倉	○	○				
			中国語ⅢA・B	2		各1	王	○	○				
			中国語ⅣA・B	2		各1	大野	○	○				
			韓国語ⅠA・B	1		各1	小針・金	○	○				
			韓国語ⅡA・B	1		各1	小針・金	○	○				
			韓国語ⅢA・B	2		各1	小針	○	○				
			韓国語ⅣA・B	2		各1	小針・金	○	○				
			フィリピン語ⅠA・B	1		各1	米野	○	○				
			フィリピン語ⅡA・B	1		各1	ベントウラ	○	○				
			フィリピン語ⅢA・B	2		各1	ベントウラ	○	○				
			フィリピン語ⅣA・B	2		各1	ベントウラ	○	○				
			ドイツ語ⅠA・B	1		各1	小柴	○	○				
			ドイツ語ⅡA・B	1		各1	ファイファー	○	○				
			ドイツ語ⅢA・B	2		各1	小谷	○	○				
			ドイツ語ⅣA・B	2		各1	ファイファー	○	○				
			フランス語ⅠA・B	1		各1	セブラン	○	○				
			フランス語ⅡA・B	1		各1	関	○	○				
			フランス語ⅢA・B	2		各1	矢田	○	○				
			フランス語ⅣA・B	2		各1	剣持	○	○				
			ロシア語ⅠA・B	1		各1	広岡	○	○				
			ロシア語ⅡA・B	1		各1	川畑	○	○				
			ロシア語ⅢA・B	2		各1	堀内	○	○				
			ロシア語ⅣA・B	2		各1	川畑	○	○				
			スペイン語ⅠA・B	1		各1	森	○	○				
			スペイン語ⅡA・B	1		各1	キロス	○	○				
			スペイン語ⅢA・B	2		各1	杉田	○	○				
			スペイン語ⅣA・B	2		各1	照屋	○	○				
			日本語ⅠA・B	1		各1	松尾	○	○				
			日本語ⅡA・B	1		各1	鈴木加	○	○				
			日本語ⅢA・B	2		各1	松尾	○	○				
			日本語ⅣA・B	2		各1	鈴木加	○	○				
				地域研究・フィールドワーク（8単位）	現代アメリカ論A・B	1・2		各2	佐藤真	○	○		
					現代ロシア・東欧論A・B	1・2		各2	浜	○	○		
					現代中国論A・B	2・3		各2	大野	○	○		
					現代韓国朝鮮論A・B	2・3		各2	奥蘭	○	○		
					現代ヨーロッパ論A・B	1・2		各2	小窪	○	○		
					現代東南アジア論A・B	2～4		各2	吉田航	○	○		
			中東アフリカ論A・B		1・2		各2	山本	○	○			
			フィールド・スタディA・B		1～3		各2	孫	○	○			
			フィールドワークⅠ		1～3		2	湖中	○	○			
			フィールドワークⅡA・B		2～4		各2	村橋・湖中・孫	○	○			
		学部基盤科目 LC4	（8単位）	国際政治学A・B	1・2		各2	A:浜 B:山本	○	○			
					人類と文化A・B	1・2		各2	富沢	○	○		
					国際関係論A・B	1・2		各2	A:小窪 B:飯野光	○	○		
					日本文化論A・B	1・2		各2	吉田真	○	○		
				ことばと心理A・B	1・2		各2	寺尾	○	○			

履 修 方 法

LC3地域実践力

(1)地域言語に指定された科目である, 中国語ⅠA・B～ⅣA・B, 韓国語ⅠA・B～ⅣA・B, フィリピン語ⅠA・B～ⅣA・Bドイツ語ⅠA・B～ⅣA・B, フランス語ⅠA・B～ⅣA・B, スペイン語ⅠA・B～ⅣA・B, ロシア語ⅠA・B～ⅣA・B, 日本語ⅠA・B～ⅣA・Bのうちから1言語8単位を修得しなければならない。ただし, 日本語ⅠA・B～ⅣA・Bは留学生に限る。

いずれの言語も同一年度内にⅠA・B, ⅡA・B(またはⅢA・B, ⅣA・B)と連続して履修しなければならない。

(2)地域研究・フィールドワークに指定された科目のうちから8単位を修得しなければならない。

LC4学部基盤科目

国際政治学A・B, 人類と文化A・B, 国際関係論A・B, 日本文化論A・B, ことばと心理A・Bのうちから8単位を修得しなければならない。

国際関係学部 国際言語文化学科 専門教育科目

科目群	科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
ブリッジ科目 (12単位)	英米文学概論A・B	2		各2	白木	○	○		
	英米史A・B	1		各2	望戸	○	○		
	比較文化へのアプローチ	1		2	栗田・澤田・志田・米山・望戸・白木	○	○		
	グローバルコミュニケーション入門	1		2	長野・澤崎・須田・酒井 竹部・ディハーン・リダン・田村	○	○		
	英語音声学Ⅰ	1		2	新妻	○	○		
	英文法A・B	1		各2	田村	○	○		
	英語学概論A・B	2		各2	田村	○	○		
	漢文学概論ⅠA・B	2・3		各2	埴田	○	○		
	漢文学概論Ⅱ	3・4		2	埴田	○	○		
	言語学概論Ⅰ	1・2		2	有賀照	○	○		
	言語学概論Ⅱ	1・2		2	小町	○	○		
	日本語学概論A・B	1・2		各2	竹部	○	○		
	日本語表現法ⅠA・B	1・2		各2	澤崎	○	○		
	日本文学研究ⅡA・B	1・2		各2	A:細川 B:鈴木さ	○	○		
	日本文学史A・B	1・2		各2	鈴木さ	○	○		
	日本思想概論A・B	1・2		各2	木澤	○	○		
	日本とアジアA・B	1・2		各2	オムニバス	○	○		
	中国現代史A・B	1・2		各2	大野	○	○		
	韓国朝鮮現代史A・B	1・2		各2	奥蘭	○	○		
	東南アジア現代史A・B	1・2		各2	米野	○	○		
	ロシア現代史A・B	1・2		各2	広岡	○	○		
	ヨーロッパ史Ⅰ	1・2		2	橋川	○	○		
	ヨーロッパ史Ⅱ	1・2		2	尾崎	○	○		
	ヨーロッパ史Ⅲ	1・2		2	尾崎	○	○		
	ヨーロッパ思想A・B	1・2		各2	有賀	○	○		
	ヨーロッパ研究入門A・B	1・2		各2	A:剣持・小谷・ファイファー・森 B:今年度開講せず	○	○		
	フランス史入門	2・3		2	剣持	○	○		
専門プログラム (20単位)	グローバル・コミュニケーション (20単位)	コミュニケーション論A・B	2～4	各2	飯野勝			○	○
		異文化コミュニケーションA・B	3・4	各2	高畑			○	○
		比較言語論A・B	2～4	各2	長野			○	○
		英語表現法A・B	2～4	各2	須田			○	○
		英語音声学Ⅱ	2～4	2	新妻			○	○
		教育言語学概論A・B	2～4	各2	A:須田 B:長野			○	○
		英米語学特殊研究	3・4	2	田村			○	○
		英語リテラシースキル	2～4	2	ディハーン			○	○
		コミュニケーション・デザイン	2～4	2	リダン			○	○
		通訳の理論と実践	2～4	2	河原			○	○
		音声言語	2～4	2	有賀照			○	○
		日本語文法論A・B	2～4	各2	竹部			○	○
		日本語教育学B	2～4	2	酒井			○	○
		日本語教授法A・B	2～4	各2	酒井			○	○
		日本語教育実践研究	4	2	酒井			○	○
		日本語史A・B	2～4	各2	竹部			○	○
		日本語学特殊研究	3・4	2	寺尾			○	○
		日本語表現法ⅡA・B	3・4	各2	澤崎			○	○
		日本学研究A・B	2～4	各2	澤崎			○	○

履 修 方 法

ブリッジ科目

国際言語文化学科においては、国際言語文化学科ブリッジ科目に指定された科目のうちから12単位を修得しなければならない。

専門プログラム

国際言語文化学科においては、グローバル・コミュニケーションプログラム、比較文化プログラム、日本研究プログラム、アジア研究プログラム、ヨーロッパ研究プログラムのうちのいずれかひとつのプログラムに指定された科目のうちから20単位を修得しなければならない。

国際関係学部 国際言語文化学科 専門教育科目

科目群		科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
				必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
専門プログラム（20単位）	比較文化（20単位）	比較文化論A・B	2～4		各2	志田			○	○
		比較文化特殊研究A・B	3・4		各2	志田			○	○
		比較言語論A・B	2～4		各2	長野			○	○
		英米文化論A・B	2・3		各2	栗田			○	○
		英米文学史A・B	2～4		各2	白木			○	○
		英米の社会と言語A・B	2～4		各2	米山			○	○
		英米の社会と思想A・B	2～4		各2	望戸			○	○
		グローバル史A・B	2～4		各2	望戸			○	○
		英米文化特殊研究	3・4		2	栗田・有元			○	○
		英語文学特殊研究	3・4		2	白木・有元			○	○
		オーストラリア文化論A・B	2～4		各2	澤田			○	○
		多文化共生論A・B	2～4		各2	高畑			○	○
		公共史	3・4		2	剣持			○	○
		文化政策A・B	3・4		各2	丹治			○	○
		比較日本文化論A	2～4		2	木澤			○	○
		比較日本倫理思想A	2～4		2	大胡			○	○
		比較哲学A	2～4		2	平山			○	○
		オリエント文化社会論A・B	2～4		各2	青木			○	○
		スペイン比較文学論	2～4		2	今年度開講せず(森)			○	○
	日本研究（20単位）	日本学研究A・B	2～4		各2	澤崎			○	○
		比較日本文化論A・B	2～4		各2	木澤			○	○
		日本文化特殊研究	2～4		2	吉田真			○	○
		日本古典文学研究A・B	3・4		各2	鈴木さ			○	○
		日本近代文学研究A・B	3・4		各2	細川			○	○
		日本文学特殊研究	3・4		2	細川			○	○
		日本芸能論	2～4		2	吉田真ほか			○	○
		日本語史A・B	2～4		各2	竹部			○	○
		日本宗教思想研究A・B	3・4		各2	吉田真			○	○
		比較日本倫理思想A・B	2～4		各2	大胡			○	○
		日本倫理思想研究A・B	3・4		各2	木澤			○	○
		日本死生学	3・4		2	吉田真			○	○
		比較哲学A・B	2～4		各2	平山			○	○
		日本外交論A・B	2～4		各2	森山			○	○
		比較政治論A・B	2～4		各2	前山			○	○
		家族論A・B	2～4		各2	大塚			○	○
	アジア研究（20単位）	アジア地域協力論A・B	2～4		各2	塩崎			○	○
		現代アジア交流論A・B	2～4		各2	塩崎			○	○
		現代アジア社会論	2～4		2	石井			○	○
		中国社会論	2～4		2	奈倉			○	○
		現代中国の諸相A・B	2～4		各2	大野			○	○
		韓国朝鮮社会論	2～4		2	小針			○	○
		東南アジア文化論A・B	2～4		各2	米野			○	○
		東南アジア社会論	2～4		2	塩崎			○	○
		アジアにおけるロシア	2～4		2	堀内			○	○
		オーストラリア文化論A・B	2～4		各2	澤田			○	○
		中国語表現法A・B	3		各2	王			○	○
		韓国語表現法A・B	3		各2	小針			○	○
		フィリピン語表現法A・B	3		各2	バントウラ			○	○
		ロシア語表現法A・B	3		各2	堀内・川畑			○	○
		中国リーディングスA・B	3・4		各2	奈倉			○	○

履 修 方 法

--

国際関係学部 国際言語文化学科 専門教育科目

科目群		科目名	配当年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)	カリキュラムマップ			
				必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
専門プログラム（20単位）	アジア研究（20単位）	韓国朝鮮リーディングスⅠA・B	3・4		各2	今年度開講せず(奥園)			○	○
		韓国朝鮮リーディングスⅡA・B	3・4		各2	奥園			○	○
		東南アジアリーディングスA・B	3・4		各2	吉田航			○	○
		ロシアリーディングスA・B	3・4		各2	堀内			○	○
		安全保障論A・B	2～4		各2	山下			○	○
		日本外交論A・B	2～4		各2	森山			○	○
	ヨーロッパ研究（20単位）	文化政策A・B	3・4		各2	丹治			○	○
		地中海文明A・B	3・4		各2	橋川			○	○
		キリスト教史A・B	3・4		各2	尾崎			○	○
		ヨーロッパ現代史	3・4		2	剣持			○	○
		公共史	3・4		2	剣持			○	○
		国際思想史A・B	3・4		各2	松森			○	○
		ドイツ文芸論	2～4		2	小谷			○	○
		ドイツ文化論	2～4		2	ファイファー			○	○
		フランス文学論	2～4		2	関			○	○
		スペイン文化論	2～4		2	今年度開講せず(森)			○	○
		スペイン比較文学論	2～4		2	森			○	○
		ドイツ・テキスト研究A・B	3・4		各2	小谷			○	○
		フランス・テキスト研究A・B	3・4		各2	関			○	○
		スペイン・テキスト研究A・B	3・4		各2	森			○	○
		ドイツ語表現研究A・B	3・4		各2	トロスト			○	○
		フランス語表現研究A・B	3・4		各2	セブラン			○	○
		スペイン語表現研究A・B	3・4		各2	照屋			○	○
		西洋古典語研究ⅠA・B	2～4		各2	橋川			○	○
		西洋古典語研究ⅡA・B	2～4		各2	有賀			○	○
		アジアにおけるロシア	2～4		2	堀内			○	○
		オーストラリア文化論A・B	2～4		各2	澤田			○	○
		英米の社会と言語A・B	2～4		各2	米山			○	○
		ヨーロッパ政治外交A・B	2～4		各2	A:今年度開講せず(小窪) B:浜			○	○
		中東政治外交	2～4		2	山本			○	○
自由選択科目（26単位）	自由選択言語科目	ドイツ語会話A・B	2		各1	トロスト			○	○
		フランス語会話A・B	2		各1	セブラン			○	○
		スペイン語会話A・B	2		各1	キロス			○	○
		検定英語	1～4		2～6	—			○	○
		検定ドイツ語	2～4		2～6	—			○	○
		検定フランス語	2～4		2～6	—			○	○
		検定スペイン語	2～4		2～6	—			○	○
		検定韓国語	2～4		2～6	—			○	○
		海外研修英語	1～4		1～6	—			○	○
		海外研修中国語	1～4		2	—			○	○
		海外研修ドイツ語	1～4		2～4	—			○	○
		海外研修フランス語	1～4		2～4	—			○	○
		海外研修スペイン語	1～4		2～4	—			○	○
		海外研修韓国語	1～4		4～8	—			○	○
		本表に記載された科目のうち、アカデミック・リテラシー、英語コミュニケーション、地域言語、演習及び卒業研究に分類された授業科目を除くすべての科目並びに全学共通科目			各1～2				○	○
演習(4単位)		演習ⅠA・B	3	各1		各教員			○	○
		演習ⅡA・B	4	各1		各教員			○	○
卒業研究(8単位)						各教員			○	○

*DP=ディプロマ・ポリシー。詳細は以下を参照。

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/#90c19407>

履 修 方 法

自由選択科目

LC1アカデミック・リテラシーとLC2英語コミュニケーションとLC3地域実践力の地域言語の科目群に分類指定された授業科目を除いたすべての国際関係学部専門教育科目(自由選択言語科目を含む)及び全学共通科目のうちから、26単位を修得しなければならない。ただし、この26単位のうち全学共通科目は最大8単位までとする。したがって、卒業単位として認定される全学共通科目は最大16単位となる。

演習及び卒業研究

(1) 演習は演習ⅠA・B、演習ⅡA・Bをそれぞれ連続して2単位、合計4単位を履修しなければならない。卒業研究は8単位とする。

(2) 演習ⅠA・B、演習ⅡA・B、卒業研究は、履修を選択した専門プログラムに分類された科目を担当する教員の指導を受けなければな

2022年度以降入学生用

教職に関する専門科目等					
授 業 科 目 の 名 称		配当 年次	単位数		担当教員 (斜体は非常勤講師)
			必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理A	1	2		橋本
	教育原理B	1	2		橋本
	教師論	1	2		橋本
	教育社会学	3	2		橋本
	教育心理学	1	2		園田
	特別支援教育	3	1		大井
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合学習の指導法	3	2		岡田
	教育課程・特別活動論	3	2		橋本
	教育方法	2	1		園田
	教育における情報通信技術の活用	2	1		湯瀬
	生徒指導・進路指導論	3	2		園田
	学校カウンセリング	3	2		富永
教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4	2		橋本・園田
	教育実習Ⅱ	4	1		橋本・園田
	教職実践演習(高)	4	2		橋本・園田
大学が独自に設定する科目	青年心理学	2		2	園田
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語科教育法A	3	2		細川
	国語科教育法B	3	2		細川
	英語科教育法A	3	2		須田
	英語科教育法B	3	2		須田
教職関連科目	日本国憲法AまたはB	2・3	2		鈴木隆
	身体運動科学AまたはB	1・2	2		窪田 ほか
	フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1		ローレンス ほか
	フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1		ローレンス ほか
	コンピュータ・リテラシー	1・2	2		青山・天野 竹内・坂本

履 修 方 法

履修にあたっては、「履修案内 11. 教職課程」を参照すること。

— これらの科目は教員免許取得に必要な科目であるが、卒業要件単位には算入されない。

【検定英語の履修方法】

検定英語の認定単位は、次のとおりとする。

- (1) 実用英語技能検定(通称英検)1級または TOEIC800 点以上を「検定英語」6単位として認定する。
- (2) 実用英語技能検定準1級または TOEIC650～799 点を「検定英語」2単位として認定する。
- (3) 認定単位は6単位までとする。例えば、1年次に英検準1級に合格すれば2単位が修得でき、翌年の2年次に1級に合格すると合計6単位が修得できる。ただし、英検準1級と TOEIC650～799 点を併せて4単位を修得することはできない。いずれかの検定で2単位を修得した後は、それより高い水準の結果に対して合計6単位まで認定する。
- (4) 検定試験の結果は、英検1級又は TOEIC800 点以上を本学の「秀」として、英検準1級又は TOEIC 650～799 点以上を本学「優」として認定する。
- (5) 学生は、各学期の定期試験最終日までに、事務局学生室へ、所定の検定英語単位認定申請書と検定試験の結果・スコアのオリジナル及びそのコピーを提出し申請する。
- (6) 本学入学以前に上記の水準に達したものの、前項と同じ手続きを経て単位を修得できる。TOEIC の場合は、単位認定申請時の2年前までの得点を有効とする。

【検定ドイツ語・検定フランス語・検定スペイン語の履修方法】

(1) 検定ドイツ語の認定単位は、次のとおりとする。

- ① ドイツ語技能検定試験1級・準1級を「検定ドイツ語」6単位、本学の「秀」として認定する。
- ② ドイツ語技能検定試験2級を「検定ドイツ語」4単位、本学の「秀」として認定する。
- ③ ドイツ語技能検定試験3級を「検定ドイツ語」2単位、90 点以上を本学の「秀」、89 点以下を本学の「優」として認定する。

(2) 検定フランス語の認定単位は、次のとおりとする。

- ① 実用フランス語技能検定試験1級・準1級をそれぞれ「検定フランス語」6単位、本学の「秀」として認定する。
- ② 実用フランス語技能検定試験2級を「検定フランス語」4単位、本学の「秀」として認定する。
- ③ 実用フランス語技能検定試験準2級を「検定フランス語」3単位、本学の「優」として認定する。
- ④ 実用フランス語技能検定試験3級を「検定フランス語」2単位、本学の「優」として認定する。

(3) 検定スペイン語の認定単位は、次のとおりとする。

- ① スペイン語技能検定試験1級および2級をそれぞれ「検定スペイン語」6単位、本学の「秀」として認定する。
- ② スペイン語技能検定試験3級を「検定スペイン語」4単位、成績優秀者として表彰された場合には本学の「秀」として、それ以外を本学の「優」として認定する。
- ③ スペイン語技能検定試験4級および5級を「検定スペイン語」2単位、成績優秀者として表彰された場合には本学の「秀」として、それ以外を本学の「優」として認定する。

(4) 認定単位数は6単位を上限とする。

(5) 単位認定申請手続き：原則として、各学期の定期試験最終日までに、検定ドイツ語・検定フランス語・検定スペイン語担当教員まで、所定の検定ドイツ語・検定フランス語・検定スペイン語単位認定申請書と検定試験の結果のオリジナル及びそのコピーを提出する。

【検定韓国語の履修方法】

(1) 検定韓国語の認定単位は、次のとおりとする。

- ① 「ハングル」能力検定試験1級、同2級、韓国語能力試験6級、同5級をそれぞれ「検定韓国語」6単位、本学の「秀」として認定する。
- ② 「ハングル」能力検定試験準2級、韓国語能力試験4級をそれぞれ「検定韓国語」4単位、本学の「秀」として認定する。
- ③ 「ハングル」能力検定試験3級、韓国語能力試験3級をそれぞれ「検定韓国語」2単位、前者試験の場合(100 点満点)、90 点以上を本学の「秀」、89 点以下を本学の「優」として、後者試験の場合(300 点満点)、270 点以上を本学の「秀」、269 点以下を本学の「優」として、それぞれ認定する。

(2) 認定単位数は6単位を上限とする。ただし、「ハングル」能力検定試験3級と韓国語能力試験3級の合算、「ハングル」能力検定試験準2級と韓国語能力試験4級の合算はそれぞれ認められない。いずれかの試

験で2単位または4単位を修得した後は、それより高い水準(修得単位基準)のものであれば、「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験を問わず合算して、合計6単位まで認定する。

- (3)単位認定申請手続き:原則として、各学期の定期試験最終日まで、検定韓国語担当教員まで、所定の検定韓国語単位認定申請書と検定試験の結果の原本及びそのコピーを提出する(原本は照合後、提出者へ返却される)。なお、ひとつの学期で提出できるのは、ひとつの試験の合格結果のみである。

※「ハングル」能力検定試験4級、同5級、韓国語能力試験1級、同2級はいずれも単位認定しない。

【海外研修英語の履修・認定方法】

- (1)英語クラスのレベルに関係なく、本学部が認定した3週間あるいは4週間のコースを修了した学生に1単位または2単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。

- (2)認定単位は最大限6単位までとする。(在学中に最大3回まで認定する。)

- (3)成績は本学で認定する。

- (4)学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア「海外研修英語単位認定申請書」

イ 認定されたコースの修了書のオリジナルとそのコピー

ウ 担当教員より Student Report の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

- (5)(4)の手続きを経たものすべてを本学の「優」として認定する。さらに、面接試験を実施し、成績優秀者を本学の「秀」として認定する。面接者は学部の英語関連科目の担当教員と英語ネイティブスピーカー教員とする。

※ ただし、本学入学以前に修了したものについては認められない。

また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

【海外研修中国語の履修方法】

詳細については、担当教員より別途に説明・案内される。

【海外研修ドイツ語・海外研修フランス語・海外研修スペイン語の履修方法】

- (1)本学で履修中の地域言語を母国語とする国で、指定した認証機関からの派遣校における 90 時間以上のコースを修了した学生を対象に2単位を認定する。

- (2)認定単位は、最大4単位までとする。(在学中に最大2回まで認定する。)

- (3)成績は本学で認定する。

- (4)学生は、指定の期日までに事務局学生室に以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア「海外研修地域言語単位認定申請書」

イ 認定されたコースの修了証明書の原本とそのコピー

ウ 成績証明書がある場合は、原本とそのコピー

- (5)(4)の手続きを経たものに地域言語担当教員が面接を実施し、現地での成績を考慮しながら、秀、優、良、可いずれかの成績を認定する。

※ 単位認定しない場合:本学入学前の修了、本学部授業期間中の履修、修了証明書の提示がない場合、同一のプログラムを重複して修了した場合。

【海外研修韓国語の履修方法】

- (1)本学が指定した派遣校における 10,000 分(50 分×200 コマ)以上のコースを修了した学生を対象に4単位を認定する。

- (2)認定単位は、最大限8単位までとする(最大2回まで認定する)。

- (3)成績は本学で認定する。

- (4)「海外研修韓国語学習計画申請書」(様式1)を、あらかじめ学生室へ提出する。

- (5)学生は、指定の期日までに学生室に以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア「海外研修韓国語単位認定申請書」(様式2)

イ 認定されたコースの修了・成績証明書の原本とそのコピー(原本は照合後、返却される)

- (6)(5)の手続きを経たものには海外研修韓国語担当教員が面接を実施し、派遣校での成績を考慮しながら、秀、優、良、可いずれかの成績を認定する。

英語科目評価表

※この評価表は、学部 of 英語 TOEIC 系科目で適用されます。

【クラス別評価表（担当教員授業評価）】

クラス／授業評価	A	B	C	D	E（不可）
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59 以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59 以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59 以下
Low		100-90	89-75	74-60	59 以下

英語就学クラスの難易度に応じて、担当教員は授業評価を行う。

履修細則

＜2025（令和7）年度入学生用＞

国際関係学部履修細則

平成19年4月1日 細則第14号

改正 平成22年4月1日, 平成23年4月1日, 平成27年4月1日, 平成29年4月1日,
平成31年4月1日, 令和2年4月1日, 令和5年4月1日, 令和6年4月1日
令和7年4月1日

第1章 目 的

（目 的）

第1条 この細則は、静岡県立大学学則42条第2項の規定に基づき、授業科目の履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2章 履修の届出

（履 修 登 録）

第2条 学生は、定められた期間内にその学期において履修しようとする授業科目を「Web学生サービス支援システム」により登録しなければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第3条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。

（既修得授業科目の再履修）

第4条 既に単位を履修した授業科目は、履修することができない。

第3章 試験及び成績の評価

（試 験）

第5条 試験は、各学期末に期間を定めて行う。ただし、授業科目によっては随時行うことがある。

（成績の評価）

第6条 成績の評価は、試験の結果と平常の学習状況とを総合して授業科目担当教員がこれを行い、秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）の5区分とし、「可」以上を合格として所定の単位を与える。

2 前項のほか、特別の必要があるときは、その他の評価をもって合格を表すことができる。

3 履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は、不可と判定する。

4 学生は成績評価に関する確認を申請することができる。詳細は内規による。

（成績の入力）

第7条 担当教員は、定められた期間内に成績の評価を「Web学生サービス支援システム」に入力する。

（追 試 験）

第 8 条 次の理由で試験を欠席した者に対しては、追試験を行うことができる。

- (1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）
- (2) 忌引（1・2 親等に関し、死亡の日より 1 週間以内）
- (3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- (4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

2 前項の事由により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から 1 週間以内に、所定の書式により学生室に届け出なければならない。

3 追試験は、原則として試験日以後 1 か月以内に行う。

4 追試験の成績の評価は、原則として「優」以下とする。

（再 試 験）

第 9 条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しての再試験は行わない。

（不正行為）

第 10 条 試験において不正行為を行った者に対して国際関係学部長は、学則 57 条第 1 項に基づき懲戒処分を行うよう教授会及び教育研究審議会に提案することができる。

2 当該科目の単位を与えない。また、当該学期（通年の科目はその年度）のすべてあるいは一部の科目の履修単位も無効とすることができる。

3 第 1 項及び第 2 項に関する手続き等については別に定める。

（再 履 修）

第 11 条 単位を修得できなかった授業科目については、再び履修して単位の修得を図ることができる。

第 4 章 授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第 12 条 開設する授業科目及び単位数は、学則第 42 条に定めるとおりとする。

（配 当 年 次）

第 13 条 各授業科目の配当年次は、別表のとおりとする。

（成績評価平均値に基づく履修登録単位数の制限）

第 14 条 各学期に履修登録できる単位数は、GPA（成績評価平均値）に基づく CAP（履修登録単位数制限）制の対象となる。詳細は別途内規による。

（成績評価平均値に基づく履修登録単位数制限内規）

- 1 成績評価平均値に基づく履修登録単位数制限制を実施する。
- 2 成績評価は絶対評価とし、各科目担当教員の判断に任される。
- 3 GPA 制度下の成績は「秀」「優」「良」「可」「不可」の 5 段階評価とし、各段階の GP（成績評価値）は、「秀」=4 「優」=3 「良」=2 「可」=1 「不可」=0 とする。これによる GPA は各履修登録科目の単位数×GP の総和を、履修登録科目単位数の総和で除して得られる 1 単位あたりの平均値となる。

計算方法

1. [履修登録科目の単位数]×[GP]=その科目の成績点
2. [履修登録科目の成績点の合計]

3. $[\text{成績点の合計}] \div [\text{履修登録科目単位数の合計}] = \text{GPA}$ (小数点以下桁は四捨五入)

4 履修登録単位数の GPA による制限

1. 1 年生前期の履修登録単位数の制限

1 年生前期に履修登録できる単位数は 24 単位までとする。

2. 次学期履修登録単位数の GPA による制限

各学生は GPA が 3.0 以上であれば、次学期の履修登録単位数に上限はないものとするが、3.0 未満の場合には次学期の履修登録単位数は 24 単位までに制限される。

3. 履修登録単位数を制限する基準となる GPA は通算ではなく、前学期のものとする。

また、前期は 3 月 20 日、後期は 9 月 20 日の時点の GPA を基準とする。なお、復学者は休学前の学期の GPA を基準とする。

5 制限単位数を超える履修登録は認められない。

6 以下の科目については基準となる GPA および CAP 制の対象外とする。

1. 教職専門科目（授業科目名を問わない）

7 卒業要件として GPA を用いることはしない。

8 履修登録科目の成績と登録抹消

1. 履修登録をしたすべての科目は成績評価の対象となる。その科目で求められる試験および課題を満たさない場合、成績は「不可」となる。

2. 制限単位数を超える履修登録は学生が履修登録期間に修正する。当該期間に修正がなされない場合は、すべての履修登録を無効とする。

3. 学生は、前期 5 月下旬、後期 11 月下旬に定められる期間において授業科目の履修を取り消すことができる。

9 再履修と成績簿への記載

1. 「不可」科目の再履修と成績原簿・成績証明書への記載

「不可」科目については再履修した場合の成績により変更できる。成績証明書に「不可」の記録は示されないが、成績原簿には履修の記録として残されるので、GPA の計算に際してはカウントされる。

2. 「可」以上の成績科目の再履修

「可」以上の成績をとった科目の再履修は認められない。

(全学共通科目の履修方法)

第 15 条 全学共通科目に指定された科目のうちから 8 単位を修得しなければならない。

ただし、この 8 単位のうち「しずおか学」科目群のうちから 2 単位以上及び「数理・データサイエンス・AI 入門」1 単位を含まなければならない。

(LC1 アカデミック・リテラシーの履修方法)

第 16 条 LC1 アカデミック・リテラシーの履修方法は、次のとおりとする。

(1) 国際関係学科においては、国際関係学科 LC1 アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから 8 単位を修得しなければならない。この 8 単位のうち「コンピュータ・リテラシー」2 単位を含まなければならない。

(2) 国際言語文化学科においては、国際言語文化学科 LC1 アカデミック・リテラシーに指定された科目のうちから 8 単位を修得しなければならない。この 8 単位のうちに「コンピュータ・リテラシー」 2 単位を含まなければならない。

(LC2 英語コミュニケーションの履修方法)

第 17 条 LC2 英語コミュニケーションの履修方法は、次のとおりとする。

- (1) フレッシュマンイングリッシュⅠA・B、フレッシュマンイングリッシュⅡA・B 及び英語コミュニケーション A・B のすべてを修得しなければならない。
- (2) 課題探究型英語Ⅰに指定された科目のうちから 4 単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則 1 科目とする。また PBL EnglishⅠA・B は必ず A を先に履修しなければならない。
- (3) 課題探求型英語Ⅱに指定された科目のうちから 4 単位を修得しなければならない。ただし、各学期履修できる科目は原則 1 科目とする。また PBL EnglishⅡA・B は必ず A を先に履修しなければならない。

(LC3 地域実践力の履修方法)

第 18 条 LC3 地域実践力の履修方法は、次のとおりとする。

- (1) 地域言語に指定された科目である、中国語ⅠA・B～ⅣA・B、韓国語ⅠA・B～ⅣA・B、フィリピン語ⅠA・B～ⅣA・B、ドイツ語ⅠA・B～ⅣA・B、フランス語ⅠA・B～ⅣA・B、スペイン語ⅠA・B～ⅣA・B、ロシア語ⅠA・B～ⅣA・B、日本語ⅠA・B～ⅣA・B のうちから 1 言語 8 単位を修得しなければならない。ただし、日本語ⅠA・B～ⅣA・B は留学生に限る。いずれの言語も同一年度内にⅠA・B、ⅡA・B（またはⅢA・B、ⅣA・B）と連続して履修しなければならない。
- (2) 地域研究・フィールドワークに指定された科目のうちから 8 単位を修得しなければならない。

(LC4 学部基盤科目の履修方法)

第 19 条 国際政治学 A・B、人類と文化 A・B、国際関係論 A・B、日本文化論 A・B、ことばと心理 A・B のうちから 8 単位を修得しなければならない。

(ブリッジ科目の履修方法)

第 20 条 ブリッジ科目の履修方法は、次のとおりとする。

- (1) 国際関係学科においては、国際関係学科ブリッジ科目に指定された科目のうちから 12 単位を修得しなければならない。
- (2) 国際言語文化学科においては、国際言語文化学科ブリッジ科目に指定された科目のうちから 12 単位を修得しなければならない。

(専門プログラムの履修方法)

第 21 条 専門プログラムの履修方法は、次のとおりとする。

- (1) 国際関係学科においては、国際公共政策プログラム、国際開発プログラム、共生社会プログラムのうちのいずれかひとつのプログラムに指定された科目のうちから 20 単位を修得しなければならない。
- (2) 国際言語文化学科においては、グローバル・コミュニケーションプログラム、比較文化プログラム、日本研究プログラム、アジア研究プログラム、ヨーロッパ研究プログ

ラムのうちのいずれかひとつのプログラムに指定された科目のうちから 20 単位を修得しなければならない。

(自由選択科目の履修方法)

第 22 条 LC1 アカデミック・リテラシーと LC2 英語コミュニケーションと LC3 地域実践力の地域言語に指定された授業科目を除いたすべての国際関係学部専門教育科目(自由選択言語科目を含む)及び全学共通科目のうちから、26 単位を修得しなければならない。ただし、この 26 単位のうち全学共通科目は最大 8 単位までとする。したがって、卒業単位として認定される全学共通科目は最大 16 単位となる。

(演習及び卒業研究の履修方法)

第 23 条 演習及び卒業研究の履修方法は、次のとおりとする。

- (1) 演習は演習ⅠA・B、演習ⅡA・Bをそれぞれ連続して 2 単位、合計 4 単位を履修しなければならない。卒業研究は 8 単位とする。
- (2) 演習ⅠA・B、演習ⅡA・B、卒業研究は、履修を選択した専門プログラムに指定されたいずれかの科目を担当する教員の指導を受けなければならない。
- (3) 演習ⅠA・B、演習ⅡA・B、卒業研究は同一教員の指導を受けることが望ましい。少なくとも演習ⅡA・Bと卒業研究は同一教員の指導を受けなければならない。
- (4) 前項(3)の規定にもかかわらず、指導を受ける教員を変更せざるをえない事態が生じた場合の対応は、教授会もしくは学部運営委員会の審議による。その取扱いは、内規による。

第 5 章 卒業研究

(卒業研究)

第 24 条 卒業研究の取扱いについては、学則に定めるもののほか、別途内規による。

(卒業研究指導審査内規)

- 1 本学部における卒業研究の取扱いについては、学則に定めるもののほか、この内規による。
- 2 卒業研究は論文とする。
- 3 論文の分量は、(和文) 12000 字以上、または(英文) 4000 語以上とし、規格、様式、書式等については、指導教員の指示に従う。
- 4 論文の提出日時は卒業年次 1 月 11 日午後 1 時から 5 時まで、及び 1 月 12 日午後 1 時から午後 5 時までとする。ただし、1 月 12 日が土曜日・日曜日または祝日の場合は国際関係学部教務委員会が決定した日時とする。

なお、学期の終わりの一つである 9 月卒業を希望する者の論文提出日時は、7 月 31 日午前 9 時から午後 5 時までとする。(31 日が土曜日・日曜日の場合は直近の金曜日の午前 9 時から午後 5 時までとする。)

- 5 論文の提出先は学生室とする。
- 6 論文の審査は、2 人以上の教員(原則として専任)があたり、学生室の定める日までに成績を提出する。

7 この内規の運用は国際関係学部教務委員会が対応する。

(9月卒業に関する内規)

9月卒業を希望する者は4月の科目登録時に学生室にその旨を必ず申告し、受理されるものとする。

第6章 他学部授業科目の履修方法

(他学部授業科目の履修方法)

第25条 他学部開講の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得なければならない。

2 前項に基づいて履修した者には、8単位を限度として単位の認定を行い、卒業に必要な単位数に算入する。

3 第1項に基づき履修を行う場合は、所定の書式により第2条に定める期間内に届出を学生室に提出するものとする。

第7章 その他

(他大学との単位互換制度による修得単位の認定)

第26条 他大学等との単位互換協定等に基づき履修した授業科目は、専門教育科目中の自由選択科目に含めるものとし、修得単位については12単位を限度として卒業に必要な単位数に算入するものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第27条 学則第40条第2項に規定する単位認定を受けようとする者は、所定の書式により第1年次の授業開始後の定められた期間内に学生室に申請し、教授会の承認を得なければならない。

(その他)

第28条 この細則に定めのない事項またはこの細則により難い特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

附 則

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この細則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

2 令和 6 年度以前に入学した者については、改正後の履修細則第 16 条について、なお従前の例による。

履修要項の再発行はできません。
学部卒業後も履修要項が必要となる場合がありますので、各自で保管してください。